

# 三重県競技力向上対策本部

## 第6回本部会議



平成30年4月16日（月）

ホテルグリーンパーク津



# 三重県競技力向上対策本部 第6回本部会議 資料目次

○ 三重県競技力向上対策本部第6回本部会議式次第	P	3
○ 報告事項		
(報告事項1) 委員及び役員の変更	P	7
(報告事項2) 三重県競技力向上対策本部会議等の開催経過	P	8
(報告事項3) 三重県競技力向上対策本部第9回競技力向上対策委員会の概要	P	10
(報告事項4) 第72回国民体育大会の総合成績	P	13
(報告事項5) 三重県競技力向上対策本部各専門委員会の概要	P	14
(報告事項6) 三重県競技力向上対策本部第10回競技力向上対策委員会の概要	P	22
(報告事項7) 平成29年度補正予算の専決処分	P	25
(報告事項8) 三重県競技力向上対策本部第10回競技力向上対策委員会の審議 決定事項	P	26
(報告事項9) 三重県競技力向上対策本部規約の変更	P	60
(報告事項10) 三重県競技力向上対策本部事務局規程の変更	P	61
(報告事項11) 三重県競技力向上対策本部財務会計規程の変更	P	63
○ 審議事項		
(第1号議案) 三重県競技力向上対策基本方針における目標の修正(案)	P	67
(第2号議案) 平成29年度事業報告(案)	P	68
(第3号議案) 平成29年度収支決算(案)	P	72
(第4号議案) 平成30年度事業計画(案)	P	74
(第5号議案) 平成30年度収支予算(案)	P	76
○ その他		
(情報共有事項1) 三重とこわか国体・三重とこわか大会の開催準備について	P	81
(情報共有事項2) 平成30年度全国高等学校総合体育大会の準備状況について	P	83



# 三重県競技力向上対策本部 第6回本部会議 式次第

平成30年4月16日(月)  
新緑の森公園 6階 藤・萩の間

## 1 開 会

## 2 あいさつ

## 3 報告事項

- (報告事項1) 委員及び役員の変更
- (報告事項2) 三重県競技力向上対策本部会議等の開催経過
- (報告事項3) 三重県競技力向上対策本部第9回競技力向上対策委員会の概要
- (報告事項4) 第72回国民体育大会の総合成績
- (報告事項5) 三重県競技力向上対策本部各専門委員会の概要
- (報告事項6) 三重県競技力向上対策本部第10回競技力向上対策委員会の概要
- (報告事項7) 平成29年度補正予算の専決処分
- (報告事項8) 三重県競技力向上対策本部第10回競技力向上対策委員会の審議決定事項
- (報告事項9) 三重県競技力向上対策本部規約の変更
- (報告事項10) 三重県競技力向上対策本部事務局規程の変更
- (報告事項11) 三重県競技力向上対策本部財務会計規程の変更

## 4 審議事項

- (第1号議案) 三重県競技力向上対策基本方針における目標の修正(案)
- (第2号議案) 平成29年度事業報告(案)
- (第3号議案) 平成29年度収支決算(案)
- (第4号議案) 平成30年度事業計画(案)
- (第5号議案) 平成30年度収支予算(案)

## 5 その他

- (情報共有事項1) 三重とこわか国体・三重とこわか大会の開催準備について
- (情報共有事項2) 平成30年度全国高等学校総合体育大会の準備状況について

## 6 閉 会



# 報 告 事 項





## 委員及び役員の変更

選出区分	所属機関・団体・役職名	新	旧
県議会関係	三重県議会議長	舟橋 裕幸	中村 進一
市町関係	三重県市長会会長	前葉 泰幸	日沖 靖
学校・スポーツ 団体関係	三重県中学校体育連盟会長	中西 裕之	中村 宏

## 三重県競技力向上対策本部会議等の開催経過

年月日	内 容
平成23年 11月15日	県、県教育委員会、財団法人三重県体育協会の連名により、文部科学省、公益財団法人日本体育協会に開催要望書を提出しました。
平成24年 1月11日	公益財団法人日本体育協会理事会にて、平成33年第76回国民体育大会の開催地として内々定されました。
平成25年 5月29日	三重県競技力向上対策本部「設立会議」、「第1回本部会議」を開催しました。
6月 3日	三重県競技力向上対策本部「第1回競技力向上対策委員会」を開催しました。
11月19日	三重県競技力向上対策本部「第1回成年選手強化専門委員会」を開催しました。
12月13日	三重県競技力向上対策本部「第1回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。
12月16日	三重県競技力向上対策本部「第1回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。
平成26年 3月24日	三重県競技力向上対策本部「第2回競技力向上対策委員会」を開催しました。
4月22日	三重県競技力向上対策本部「第2回本部会議」を開催しました。
10月 1日	三重県競技力向上対策本部「第3回競技力向上対策委員会」を開催しました。
11月13日	三重県競技力向上対策本部「第2回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。
11月19日	三重県競技力向上対策本部「第2回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。
11月19日	三重県競技力向上対策本部「第2回成年選手強化専門委員会」を開催しました。
平成27年 3月19日	三重県競技力向上対策本部「第4回競技力向上対策委員会」を開催しました。
4月23日	三重県競技力向上対策本部「第3回本部会議」を開催しました。

9月 4日	三重県競技力向上対策本部「第5回競技力向上対策委員会」を開催しました。
11月4日	三重県競技力向上対策本部「第3回成年選手強化専門委員会」を開催しました。
11月16日	三重県競技力向上対策本部「第3回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。
11月25日	三重県競技力向上対策本部「第3回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。
平成28年 3月24日	三重県競技力向上対策本部「第6回競技力向上対策委員会」を開催しました。
4月18日	三重県競技力向上対策本部「第4回本部会議」を開催しました。
7月20日	公益財団法人日本体育協会理事会にて、平成33年第76回国民体育大会の開催地として内定されました。
9月14日	三重県競技力向上対策本部「第7回競技力向上対策委員会」を開催しました。
11月16日	三重県競技力向上対策本部「第4回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。
11月16日	三重県競技力向上対策本部「第4回成年選手強化専門委員会」を開催しました。
11月22日	三重県競技力向上対策本部「第4回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。
平成29年 3月23日	三重県競技力向上対策本部「第8回競技力向上対策委員会」を開催しました。
4月18日	三重県競技力向上対策本部「第5回本部会議」を開催しました。
10月30日	三重県競技力向上対策本部「第5回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。
10月31日	三重県競技力向上対策本部「第5回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。
10月31日	三重県競技力向上対策本部「第5回成年選手強化専門委員会」を開催しました。
11月20日	三重県競技力向上対策本部「第9回競技力向上対策委員会」を開催しました。
平成30年 3月14日	三重県競技力向上対策本部「第10回競技力向上対策委員会」を開催しました。

## 三重県競技力向上対策本部 競技力向上対策委員会の概要

## (第9回競技力向上対策委員会)

平成29年11月20日(月)

## 1 えひめ国体の結果を受けての今後の目標について

- ・目標値の議論は非常に重要である。東京一極集中は、今に始まったわけではなく、東京オリパラに向けて加速し、東京が右肩上がりで見えている。東京は今の時点で2,500点獲得しており、このまま右肩上がりで見れば、3,000点もあり得る。当初、三重県が目標に設定した2,500点の設定根拠の明確化と振り返りが必要ではないか。成年・少年の男女が何点獲得できるのかをしっかりと各競技の強化育成・スカウト計画とリンクさせながら、理屈に基づいた目標立案が重要である。

## 2 ジュニア選手及び少年選手の発掘・育成・強化について

- ・ターゲットエイジに対する意識の醸成に関して、今の中学3年生の選手は、三重国体の前年に高校3年生となる非常に重要な学年であるが、小学校の頃から強化を行ってきた選手が、突然県外の高校に進学することになった。日本でも5本の指に入るトップ選手であり、生徒の気持ちが変わらず困っている。県外への流出について、中学校の現場は、「子どもが決めたことだから仕方がない。」と言う。選手の県外流出が現実になり、この先に不安を感じている。良い対策を考えてほしい。
- ・ジュニア期から県内強豪校の試合を見せ、将来自分もこの学校で頑張るという意識付けをする、選手寮を整備し、県外流出防止を図る、中学2～3年生には県外高校での合宿には参加させず、選手に県外高校から勧誘の声がかかるのを防いでいるなどの取組事例がある。
- ・SNSで選手・友達同士が簡単に繋がるので、学校を通さずに高校の先輩などから勧誘の声がかかる恐れがある。選手をどう引き留めるのかが危惧される。
- ・県内の校長会の申し合わせを変えて、中学生に対する進路・勧誘の解禁日を現在の10月1日から前倒しし、中学1・2年生の時から勧誘できるようにしてはどうか。

- ・強化のためにトレーニングで追い込めば追い込むほど、怪我をする選手がおり、日頃からの身体のケアの重要性を感じている。チーム専属のトレーナーなど、きめ細かなサポートがあると有難い。現状では選手任せとなっている身体のケアや栄養系のサポートを行うことにより、意識付けをしていかないといけない。
- ・怪我をした場合、スポーツドクターのいる医療機関で競技を続けながら治療できるところもある。ジュニア期に怪我で1～2年競技を休むとなると、競技力が下がり卒業を迎えることになる。選手・保護者・指導者の一人ひとりに丁寧な対応とサポートをすることで、大事に育てると意識の醸成に繋がるのではないか。
- ・ジュニア・少年選手の育成・強化は、指導者次第である。今いる指導者を集め、如何に養成していくか考えるべきである。国体で得点を獲得しようという意識がどれだけあるのか。指導者の意識をどのように養っていくのか。トップダウンで徹底した指導者への指導が必要だと思う。県外から有力な指導者を呼んでくるのもひとつである。
- ・部活動ガイドラインは、規制ではなく指針であり、目的は生徒の健やかな成長であり、休養日と活動時間の設定などが今年度中に作成される予定である。
- ・早くから選抜チームを作り、学校単位ではなく、競技団体のチームとして取り組んでいく必要があるのではないか。
- ・全ての学校にトレーナーを配置する静岡県の取組や1校に1トレーナーを配置する新潟県の取組があるので、予算が必要となるが、サポート体制構築の参考になるのではないか。
- ・県内の私立学校に国体で得点が獲得しやすい競技のクラブを作り、良い指導者を配置すれば、良い選手も集まるのではないか。

### 3 成年選手の育成・強化について

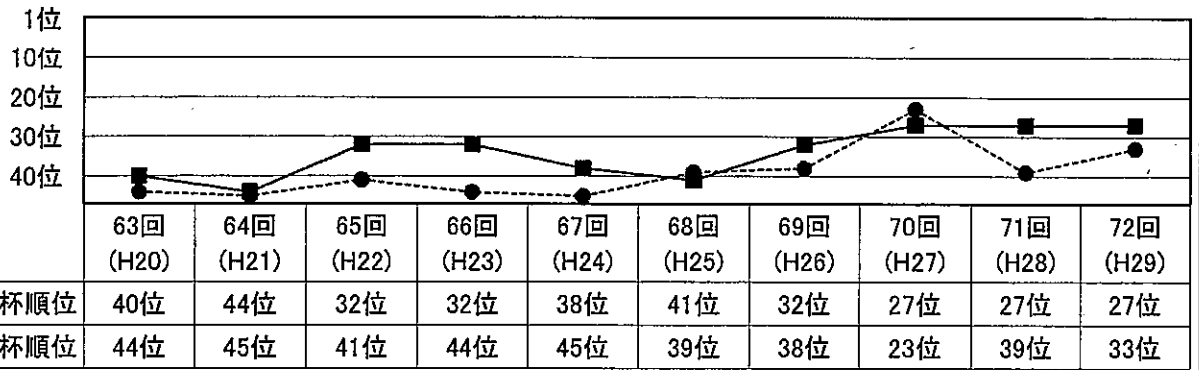
- ・強い選手に如何に三重県に来てもらうか。関東に優秀な選手が集まることが多く、若者は都会や便利なところを好むことから、三重県に来てもらうことが難しい状況がある。大学選手を三重県の練習に参加してもらう機会を作るなど試行錯誤している。
- ・指導とスカウトは車の両輪である。スカウト活動が重要で、スカウトは目利きが重要である。東京にスカウト専属の職員を常駐させてはどうか。スカウト活動の全て

を自前でする必要はなく、アウトソーシングを活用するなど人脈・情報を駆使してはどうか。予算措置と優秀な指導者の獲得も必要である。

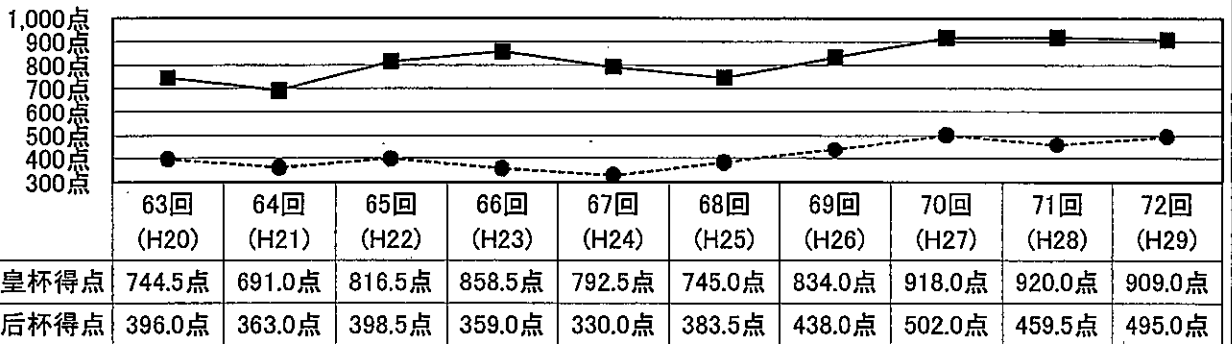
- ・競技団体と定期的な議論の場を設け、強化育成、スカウト活動等の進捗状況の共有・フォロー、新たな環境変化・課題の吸い上げと的確な対応等が必要ではないか。
- ・市町では大会運営の準備は進んでいるが、天皇杯獲得や競技力向上に関する意識は上がっていないと思う。
- ・情報が瞬時に広がる今だからこそ、チームの魅力づくりが大切である。
- ・選手獲得では、魅力的な練習環境と就職先が必要である。選手にとって魅力的な就職先として、公務員はあると思う。教員職や行政職の採用枠やスポーツ指導員の配置数を拡大してほしい。
- ・三重国体に対する認知度が上がっていない。三重県では、伊勢志摩サミットの次は、スポーツが重要として「スポーツイヤー元年」と言っているが、県民の末端まで浸透していないのではないか。強化するためには、予算が必要なので、まずは予算措置をしないとイケない。市町への浸透、市町の本気度もまだまだ不足している。県内の役所、学校、駅、企業、商店、病院等のあらゆる施設に三重国体のポスター・のぼり旗・横断幕を設置するなど、スピード感を持って啓発を強化し、三重国体に向けたマーケティング戦略（ブランド浸透）が必要ではないか。それにより、県市町の予算増額、職員の採用枠拡大、県内企業・県民からの寄付金増額等に繋がるのではないか。
- ・ターゲットエイジやふるさと枠選手の把握を徹底する必要があるのではないか。
- ・自衛隊体育学校の選手獲得を図ってはどうか。
- ・大企業にトップセールスを行い、チームごと三重県に来てもらうことはできないか。

第72回国民体育大会の総合成績

国民体育大会における成績(順位)の推移



国民体育大会における成績(得点)の推移



男女総合成績競技別一覧

競技順位	競技名	競技得点	参加点	合計
1	ソフトテニス	70.0	10.0	80.0
4	ゴルフ	21.0	10.0	31.0
5	レスリング	52.5	10.0	62.5
5	セーリング	34.0	10.0	44.0
8	ウエイトリフティング	57.0	10.0	67.0
8	弓道	42.0	10.0	52.0
9	相撲	15.0	10.0	25.0
9	フェンシング	30.0	10.0	40.0
12	ラグビーフットボール	20.0	10.0	30.0
13	水泳	48.0	10.0	58.0
13	ハント・ホース	25.0	10.0	35.0
15	山岳	27.0	10.0	37.0
16	テニス	6.0	10.0	16.0
18	陸上競技	42.0	10.0	52.0
22	馬術	15.0	10.0	25.0
24	スキー	1.0	10.0	11.0
27	空手道	2.5	10.0	12.5
34	ボクシング	5.0	10.0	15.0
39	カヌー	6.0	10.0	16.0
小計	19競技(競技得点あり)	519.0	190.0	709.0
	20競技(参加得点のみ)		200.0	200.0
	1競技(不参加)		0.0	0.0
	40競技	519.0	390.0	909.0

女子総合成績競技別一覧

競技順位	競技名	競技得点	参加点	合計
4	ソフトテニス	35.0	10.0	45.0
5	ラグビーフットボール	20.0	10.0	30.0
7	ハント・ホース	25.0	10.0	35.0
8	山岳	27.0	10.0	37.0
9	馬術	9.0	10.0	19.0
11	テニス	6.0	10.0	16.0
12	セーリング	10.0	10.0	20.0
15	ウエイトリフティング	2.0	10.0	12.0
23	カヌー	6.0	10.0	16.0
24	陸上競技	15.0	10.0	25.0
小計	9競技(競技得点あり)	155.0	90.0	245.0
	25競技(参加得点のみ)		250.0	250.0
	1競技(不参加)		0.0	0.0
	35競技	155.0	340.0	495.0

三重県競技力向上対策本部 各専門委員会の概要  
(第5回ジュニア・少年選手強化専門委員会)

平成29年10月31日(火)

- (1) 入賞レベルにある競技種目、入賞レベルに引き上げたい競技種目に対し、強化につながる取組や、チームへのサポート体制について
- ・強化費以外でトレーナーを週1回派遣してもらうなど、選手の身体をよく知っているトレーナーの派遣等の事業が必要だと思う。特に少年は選手のコンディションを最大に配慮することが重要。
  - ・少年選手の獲得についても検討することが必要だと思う。
  - ・高校運動部強化指定の強化費は、ほとんど旅費に活用されていて、サポートスタッフへの活用は後回しになっている現状がある。監督1人の力で勝つのは難しく、強豪校になるためには、スタッフの組織作りが重要である。
  - ・競技関係者が高齢化しており、指導者不足が課題。若い世代の指導者に重圧がかかっている。
  - ・指導者の質の向上については、指導者が専門家の考えを聞く必要がある。専門家が現場で、選手や指導者に対し、専門的な知識を直接伝えることが自分の身体に対するケアや自分の練習に対する動機づけにつながる。
  - ・競技得点を獲得している種目の中で、競技歴が短くても得点を獲得している競技がある。私学に協力を求めて、スポーツ指導員を張り付けて、指導してもらってはどうか。
  - ・少年は限られた資源の中で、育成・強化は難しいが、ターゲットエイジに対して進路指導してはどうか。また、県外のトップ選手を獲得してはどうか。県外のトップ選手については、越境問題のこともあるが、獲得する必要がある。
  - ・愛媛県と福井県のボートは、大量得点を取っている。学校をさだめてボートの少年男女を育成してはどうか。
- (2) 平成33年三重とこわか国体(平成33年)及び前年度のターゲットエイジの強化の取組について
- ・三重県は学校単位で活動している競技団体が多いため、全競技団体が、チームみえで強化したほうがよい。
  - ・高校側が中学生に対しての部員勧誘公立高校の進路についての話をする解禁日は、10月1日以降であるが、他県はもっと早く、全国大会で声をかけているため、それよりも日を前倒ししてもらいたい。
  - ・コンビニの弁当で済ませている選手もいるため、保護者とともに栄養等の指導していききたい。
  - ・現在の中学2年生は、とこわか国体で高校3年生になるため重要な年代であり、中学生の選抜チームで選手や保護者が集合する際に、県も出席し、「三重の宝である」「三重に残ってほしい」など、その年代の選手が必要であることをアピールしてもらいたい。
  - ・中学生の8月の全中以降は、3年生は在籍しているが練習しづらい。特にチームスポーツであるほど連携プレー等の練習ができないため、大きな空白になってしまう。パフォーマンスを維持するためには、中学校での練習はなかなか



- か難しいため、競技団体でチームみえとして強化練習を行ってほしい。
- ・ 中学3年生については、高校の中には合格が決まっても4月1日からしか練習を認めていない高校もある。練習の参加については、保護者が自由に決められる環境を整えてほしい。また、他県の制度について、ベンチマーキングをしてほしい。
  - ・ チームみえジュニアのTシャツを作っており、意識を高め、ステイタスになっている取組もある。
  - ・ 女子のターゲットエイジの選手がとこわか国体までに競技を継続していくためには、指導者の中に女性の指導者がいたほうが良いと考える。また、人間関係作りも競技の継続には重要である。中学校の部活動の引退後には、選抜チームで全国大会出場を目指す中で、チーム内で進路の相談をするようになる。また、県内の高校の強豪校と練習をすることにより、憧れを持つようになり、進路を選択するようになる。
  - ・ 三重県の代表として選ばれたという自覚を持たせることも流出を防げる方法のひとつになるのではないか。
  - ・ ハンドボールの少年は、全国大会のシードは、全国選抜、インターハイ、国体の成績で決まるため、当該年にシードを獲得するためには、今から継続して実績を残していくことが必要である。全国選抜、インターハイでは、3日目、4日目まで当然残るという意識を持つ必要がある。今からの大会が重要である。

### (3) 第72回国民体育大会の結果もふまえた平成33年三重とこわか国体の目標について

- ・ 成年選手の獲得得点には限界があるので、強化指定運動部には見直し、得点を獲得できる競技に強化を特化していく必要がある。教員の社会人採用枠でトップ指導者を採用し、戦略的に強化していったらどうか
- ・ 三重国体が2021年にあることが浸透していないと思う。全体的に機運があがってくることを期待したい。中学校の保護者にも知ってほしい、保護者の意識が変われば生徒の意識も変わる。
- ・ ターゲットとする選手や競技も絞っていったらどうか。見直しをする必要がある。
- ・ 少年女子の強化が難しいように思う。対策の検討がつかない。
- ・ 高体連や中体連は、学校単位であり、学校対抗の大会運営が主であり、強化には手が回っていない。また、中体連と高体連も連携できていない。競技団体が一本の柱としてビジョンを持って活動する必要がある。
- ・ こういった会議の意見について、良いものについては、手がけてほしい、予算の制約もクリアしてほしい。2,800点の獲得についても事務局は決意を持って、狙いを定め、取捨選択してしてほしい。

三重県競技力向上対策本部 各専門委員会の概要  
(第5回成年選手強化専門委員会)

平成29年10月31日(火)

(1) 選手獲得を促進するために必要な環境の整備とチーム、選手に対する支援のあり方について

- ・開催年はブロック大会がなく、愛媛県は成年男子において全競技種別が出場し326.5点から704.5点と約400点近く伸ばしている。三重県も開催前年に愛媛県と同じ点数を獲得できれば、開催年も同じ点数を獲得できると思う。そのためには前年に入賞するなどし、次の年のシード権を獲得することが必要である。そのため、前年にもターゲットを絞って強化を進める必要がある。
- ・昨日の企業等連絡調整専門委員会において、このままの状況では三重県が東京に勝つには非常にハードルが高いため、本当のトップの選手を獲得するために、「腕利きのスカウトを東京に駐在させる」、「受け皿としての三重県のメリットを示す必要がある」、「プロ、セミプロ、アマチュアに区別して受け皿も分類する必要がある」、という意見があった。
- ・スカウト活動は重要であり、大切にしているのは大学との連携、監督、部長、コーチとの人間関係である。大学や大会に赴き、選手には2、3年前から声をかけるとともに、卒業年度の面接、三重県における環境整備、コーチの整備にも力を入れる必要がある。
- ・本県にトップアスリートを呼ぶには、良い指導者が必要である。いない場合は、大学卒業後も大学で面倒をみてもらうなどの対応が必要である。
- ・待遇については、スポーツ活動のみがベストであるが難しい。午前に仕事、午後に練習であればよいと思う。給料面では、大卒初任給程度であるが、実績により傾斜をつけることはある。
- ・施設設備の充実が必要である。例えばトレーニングルームや酸素カプセルの整備など。インターハイ、三重国体が開催されるので、施設に設備投資をして、ナショナルセンターに行かなくてもよい魅力のあるものにしてほしい。施設があれば、他県から集まってくる。各市町に働きかけ新しいものを導入してもらえば魅力となると考えられる。
- ・民間施設の活用について協力を得ていきたい。
- ・選手が施設を半額で使えたり、無料パスで使えたり優遇されると、選手のプライドも満たすことになると考えられる。
- ・女子選手が三重県に一人で来るのは難しい。男性よりは早めに動いた方がよく、土台や環境づくりを行うことが必要であり、1、2年前に能力のある選手を集め活動を行わなければ、所属意識や団結力の向上を図ることが難しい。
- ・有名な指導者、選手を獲得することが必要であり、そのことが新しい選手を引き付けることにつながる。
- ・練習環境の充実が最も大切。指導者・時間・場所が確保され、年間の活動計画が示されるとともに、一社会人として生活できるという給与面での保証が求められる。また、ステータスを求めるのであれば会社側のネームバリュー等も必要となってくる。
- ・大学による国体への貢献を期待したい。他県は大学生が得点している。大学が地域貢献し、有名選手を特待生で入れる、有名指導者を大学に招聘するなどを、大学に働きかけ、トップ

アスリートを獲得してもらいたい。課題はあるが、とにかく当たってほしい。県の教育委員会からの働きかけがほしい。

- ・間近に来ているので育成よりも就職支援を進める必要がある。それぞれの競技団体が本気になり、競技団体の責任者がやる気を出して選手確保を行わなければならない。
- ・分析により課題がはっきりしており、団体種目をどうにかしなければならない。具体的に検討する必要がある。
- ・成年女子の団体種目について、戦略性を持たなければならない。特にネットワークを持たない競技団体は県と連携してスカウトしなければならない。岐阜県は就職支援で222名獲得している。三重県は、採用計画の合計が約250名から178名に減っており、獲得できないからといって目標人数を減らすのはいかなものか。前年までに獲得できなかった人数分は、翌年で獲得できるようにしてもらいたい。

#### 『住友電装におけるこれまでの取組』

- ・女子ラグビーは昨年スタートし、当初ある程度のレベルの選手を数名獲得した。スカウトについては、新参者でルートを確立していない。来年、日体大から受け入れるのはレギュラーであるが、トップ選手ではないため、これからのパイプ作り、足掛かりと考えている。
- ・選手にできるだけ競技生活に集中できる環境をつくろうと決断した。今まで企業としては支援していなかったが、きっかけは三重国体、設立100年の節目でもあり、変えて何かやろうと決断した。処遇、練習時間は、競技ごとに違って手探りである。
- ・選手は運動会、イベント、社報にはできる限り全面に出て、社員全体でバックアップしている。選手も練習時間を割いて出ており存在感を社内で高めている。選手と社員と触れ合うきっかけも増やし、社員にも活躍を伝えていきたい。仕事を半日やっているので、気まずい思いをして競技に影響が出ないように、人間関係も含めた環境づくりもしていきたい。
- ・選手のレベルも様々なため、処遇についてはみんな一緒にいいのかという課題もあり、コミュニケーションを密にしていきたい。クラブチームのスポンサーでもあるので、他との差が気になるので、バランス面も配慮していきたい。
- ・トップアスリートと一般社員との関係については、トップアスリートが浮き上がり、居づらくなることを危惧している。
- ・火をつけたら、経営者にも火がついてきて、全社員に理解を広めていきたい。

#### (2) 入賞レベルにある競技種目が接戦を制するために必要な取組について

- ・優勝を目指して2位、3位になるぐらいの実力が必要である。現場の監督・スタッフが、コンディショニング、調整法、メンタルトレーニングをしっかりと、実力を上げる必要がある。
- ・総監督という立場で現場の指導者を把握することも重要である。女子の選手に女性のトレーナーがつくことは、コンディショニング以外にも相談もできるため、精神的安定させられるよい取組と感じた。選手は孤独であるため、それを和らげる新しい試みはうまくいった。
- ・精神的なサポートフォローは必要であると感じる。
- ・成年男子の選手は海外の試合に出場させて意識を高めさせ、国体に出場させる。国体より上位の大会に出場させて、緊張感も体験させ、経験を増やす。

- ・各所属での練習環境が十分でない場合は、三重県での強化練習に参加させるのが望ましい。競技団体のフォローが必要である。国体期間中は、単独行動よりは県単位・チーム単位で、コンディショニングをさせたいため、スタッフを用意する必要がある。パフォーマンスを向上するため、大学でもサポート体制には気を配っている。リアルタイムな情報をスタッフが把握して、選手がパフォーマンスの発揮に集中することができるようにすることが必要。
- ・団体チームは、強化費が足りないと考える。一人の指導者で勝ちきるのは難しく、組織として勝ちきることが必要である。ラグビーでは、フォワードコーチ、バックコーチ、スクラムコーチ、ウエイトトレーニングコーチ、コンディショニングコーチ、トレーニングコーチ、栄養指導、メンタル指導等の専属スタッフが、高校生でも全国ベスト 8 のチームにはおり、人的な支援、組織作りが必要である。指導者がマネジメントするのは難しいため、総監督、マネージャー、ヘッドコーチが必要である。強化費は遠征費でなくなってしまうため、スポットコーチ、トレーナー派遣を遠征費とは別個で、予算立てしてもらいたい。高校の強化費も遠征費でなくなってしまう。組織作りとお金の使い方の検討が必要である。
- ・お金のないところは組織作りが難しい。寄付を集める必要がある。

### (3) 第 72 回国民体育大会の結果をふまえた平成 33 年三重とこわか国体の目標について

- ・東京集中や高い目標を見据えてどうしていくか。
- ・愛媛県の結果をみても、少年男女は地元の選手が主体であり、東京に追いつかない。成年男女のさらなるサポート点数が必要である。マイナー競技、未成熟な競技で獲得点数が多いところ、競技力区分が B の競技を重点的に強化する必要がある。
- ・マイナー競技は、開催県が大量得点する。
- ・メジャー競技は、スポンサー・大企業がついていて得点が難しい。
- ・2,800 点を取る覚悟でいかなければいけない。目標点を上げる必要がある。
- ・マイナー競技への強化対策が必要である。
- ・採点競技、旗競技は得点源である。全日本シニア選手権大会では、愛媛国体で優勝した愛媛県に 20 点の大差をつけることができた。開催県が演技をする際には空気が変わり、点数につながり、メリットとなる。ただし、あぐらをかいてしまうと負けてしまう。
- ・東海ブロックで敗退していても、開催年には勝てる競技もあると思うので、戦略としてアプローチを考える必要がある。
- ・8 人以上の競技のホッケーやソフトボール、サッカー等の団体競技で戦略的に選手獲得などに取り組んでいくことが必要である。
- ・リーグを優先している競技団体もあるため、リーグよりも国体を優先してもらえるよう働きかけてほしい。
- ・三重県知事から、国体への協力を、熱意を持って働きかけてもらいたい。
- ・現在の中学 2 年生が三重国体では高校 3 年生になるため、選手の顔が見えてきている。高校の場合は、強化については、教育的配慮も必要であるが、手立てを加速していかなければならない。
- ・岩手県岩手町はホッケーを町技としており、小学校で授業も行っている。人工芝のホッケー場を作っており、日本代表選手も輩出している。自治体が町技にするくらいの熱意が必要で、中学校の授業で行ったらどうか。

- ・住友電装は、従業員 6,000 人おり、アスリートを採用して社員を盛り上げていきたい。社員の採用については常に議論しているが、一定数は覚悟を決めて応援していき、一体感を求めていきたい。
- ・トップ選手は、世界を転戦しており、会社には出てきておらず、セミプロであるが、会社として馴染んでかつ選手が伸びるよう、できる範囲はやっていく。
- ・ラグビーは三重国体までは全力で応援し、象徴的な選手がいるうちに強化して、確固たるポジションを築いていきたい。
- ・ふるさと選手で漏らしている選手はいないか、洗い出して捕捉率を高める必要がある。バドミントンのように、三重国体の出場を確約してもらいたい。
- ・ホッケーは名張市長にも働きかけ、連携をとり盛り上げてもらいたい。岐阜県はホッケーで高得点を獲得しており、先催県はホッケーで得点を獲得している。地域活性化にもなる。
- ・愛媛県のスポーツ専門員は 49 名である。愛媛県や福井県のスポーツ指導員の分析をしてもらいたい。スポーツ指導員を二人競技で二人とも獲得するなど、多数獲得してもらいたい。200 人獲得で予算 10 億円。就職支援についても 250 名を目標とするなど、大きな目標を設定し気概を持って取り組む必要がある。
- ・トップアスリートを獲得するためには、好条件を出す覚悟を決めなければならない。企業は受け皿を区分しながら、就職支援を進めなければならない。
- ・教員の採用枠を増やしてもらいたい。教員は本人の活躍に加えて、その後、三重県の次の世代を育成してもらいたい。

三重県競技力向上対策本部 各専門委員会の概要  
(第5回企業等連絡調整専門委員会)

平成29年10月30日(月)

(1) 選手獲得を促進するための取組について

- ・スポーツにおいても東京一極集中化が進んでいるので、岐阜県などの成功事例をベンチマーキングするだけでなく、東京への対策を図る必要がある。
- ・強化についての中長期的なサクセッションプランを描き、どのような選手を獲得するかを計画する必要がある。
- ・選手獲得においてスカウトの力は非常に重要であり、各競技に精通しているスカウト専門の担当者がいると良いのではないかと。また、スカウトはチームの弱いところを補強していかなければならないので、現場の事情をよく知っている人である必要がある。
- ・プロ化が進んでいる競技もあり、スカウトもコネクションを使いながら行っていく必要がある。
- ・獲得選手がその企業の社風に合うかが重要であり、地域や従業員に愛される選手やチームである必要がある。そのためにはアスリートの思いと企業の思いをマッチングすることが重要である。Win-Winの関係を築き、人生を預かるという思いが必要である。
- ・採用条件や勤務形態については競技ごとに練習の量や時間などが異なり、さらにソフトボールは午前中働いているところが多いが、バレーボールやバスケットボールのほとんどが出勤はしていないなど、勤務形態の慣例も異なるため、それぞれの競技にあわせた採用を行う必要がある。
- ・日本トップレベルの選手については、日本協会からどのようなトレーニングをしてほしいというような要請が来る場合があり、それには通常の勤務をしてからのトレーニングでは足りないため、企業の理解が必要となる。企業によって、勤務時間中の練習を認めない企業もあれば、日本代表クラスの選手しか採用してくれない企業もあるので、それぞれの状況に応じてマッチングを行う必要がある。
- ・これからはスカウトするターゲットを決めて当たるとよいのではないかと。
- ・先催の年次ごとの予算、採用数、天皇杯順位を調査してはどうか。
- ・トップ選手は、環境、施設、練習相手、練習時間、指導者を求め、海外遠征が必要な場合もある。そのためには通常のフルタイムでの勤務形態では対応しきれないこともあるので、選手の獲得を検討する際にはプロ、セミプロ、アマチュアの区別をして考えていく必要がある。
- ・選手の獲得が場当たりのようになっていくところがあるので、条件別に企業を整理して選手とのマッチングを行っていく必要がある。
- ・金銭面だけでなく、メンタルや栄養などのサポートを県が行うなど、三重県に来たいと思えるようなメリットを出していく必要がある。

- ・一般の就職でも東京への集中が進んでいる。三重県への就職支援事業を進めるためには産官学の協力や保護者の理解が必要である。県が、採用していただいた企業へ何らかのインセンティブを与える必要があるのではないか。
- ・企業の経営者は選手の採用を理解しているが、職場の同僚からの理解を得られていない場合がある。選手が勤務時間中に職場を抜けるためには、同僚からの理解・協力が必要であり、なんらかのお墨付きがあると理解も進みやすいのではないか。競技団体、県、体育協会からも企業に対して選手をアピールしてはどうか。

## (2) 採用後の競技活動の確保とフォローアップについて

- ・企業側の期待値とアスリート側の期待値をマッチングさせることが重要である。採用された後にお互いに、こんなはずではなかった、とならないためにもそれぞれの思いをしっかりと合わせる必要がある。
- ・選手が充実した競技活動を行うためには、ハード、ソフトの両面からサポートする必要がある。また、個人種目等で、同じ企業に練習相手がいない場合などは他の企業の選手や場合によっては県外の選手とも練習の機会を設けるのも良いのではないか。
- ・公共の施設を利用する際に、管理がマニュアル化されており、融通が利きにくい場合がある。三重国体まではトップアスリートの利用に関してはもっと柔軟に対応していただけるように働きかけてもらいたい。また、企業の持っている施設をトップアスリートに使ってもらえるようにすると良いのではないか。
- ・企業の勤務時間についても、例えば日中でないと練習できない種目は練習をした後に仕事をするなどフレキシブルな勤務時間をとれると良いのではないか。
- ・選手のために汗をかく、選手から定期的に意見を聞き、何か問題等があれば改善するなどきめ細かくあたたかいサポートをすることが必要である。また、そのような姿勢は選手に伝わり、安心感につながる。
- ・食事面でのフォローアップが効果的である。ひとり暮らしをしている選手はどうしてもおかずに不十分になってしまうことがあるので、企業や大学に協力してもらっている。また、月1回、栄養面での指導も受けており、そのような取り組みが、効果となって表れている。
- ・アスリートが強くなるためには人間力を磨く必要があり、三重県に来ると人間力も向上できるという評判が生まれるような仕掛けを作る必要がある。
- ・県民が、平成33年に天皇杯獲得を目指しているのを認識しているか疑問である。三重国体に向けてさらに機運を醸成していく必要がある。
- ・本社が東京等の都市部にある企業で三重県に支社があるようなところは、トップ選手が三重県に転勤してもらえそうな仕掛けを作れると良いのではないか。
- ・企業だけでなく、行政Ⅲや教員のスポーツ採用枠の拡大、市町や県の外郭団体にも採用してもらおうなど、さまざまな取組が必要である。
- ・行政Ⅲの職員採用に社会人枠を復活させ、指導者の確保を検討していただきたい。
- ・三重国体後に引退した選手のサポート、フォローアップについても面倒を見る必要がある。

三重県競技力向上対策本部 競技力向上対策委員会の概要  
(第10回競技力向上対策委員会)

平成30年3月14日(水)

1 三重県の新たな目標得点について

- ・愛媛国体での三重県の獲得得点の現状からすると、新たな目標得点は天文学的な数字であるが、東京オリンピックに向け練習拠点を東京都とする選手が今後も増えると見込まれることから、2,700点ではなく2,800点を目指さないといけないのではないかと。
- ・実態と乖離した目標設定は良くないが、必達目標とチャレンジ目標があっても良いのではないかと。
- ・競技団体に新たな目標得点がどこまで響くかということもあるが、3,000点を腹に据えつつ、2,700点は獲得しないと東京都に勝てないという考え方で進めていきたい。
- ・愛媛国体で開催県である愛媛県が東京都に負けた要因は、少年種別で獲得できていないことがある。少年種別は、獲得得点を読みづらい面があるが、三重県がどれだけ獲得できるかが重要である。もし、少年種別で目標得点の7割程度しか獲得できなければ、成年種別でその分を獲得するしかない。
- ・新たな目標得点では、少年種別で1,010点以上としている。平成30年度に新中学3年生となるターゲットエイジの育成・強化が非常に重要となる。
- ・4月16日に開催予定の三重県競技力向上対策本部第6回本部会議で新たな目標得点を天皇杯2,700点以上、皇后杯1,400点以上として諮らせていただく。

2 ジュニア選手及び少年選手の発掘・育成・強化について

- ・新規事業であるチームみえ・コーチアカデミーセンター事業は、三重とこわか国体で天皇杯・皇后杯を獲得するためだけではなく、三重県がスポーツ王国として、その後も勝ち続けられるようレガシーとして残すことが重要である。受講修了者に対し、ステータスとなるバッジやライセンス証などを渡すべきではないか。第三者が見て受講修了者と一目でわかるようなものがあるとステータスになるのではないかと。県内指導者に受講したいと思わせることが重要である。
- ・4月に開催するスタートアップミーティングで受講者から知事に宣誓をしていただき、受講終了後、受講修了者に対して、修了認定証を知事から交付する予定である。これからの三重県の競技スポーツをリードしていく指導者を養成したい。
- ・レベルの高い指導者は、医療のこともわかっている。選手が怪我をした場合、選手本人や保護者は焦ることが多い。現状では医師とチーム関係者とのコミュニケーションが少ないが、指導者が医師から説明を受け、治療方法を理解し、選手や保護者に上手く伝えることなどサポート体制が重要である。選手生命を絶つことのない範囲で、治療中でもできる練習にきちんと対応しないと競技力向上に繋がらない。選抜チームの場合は、さらに多様化してくる。



- ・チームドクターがいると、医学的な知識・情報がチーム内で共有することができ、有難い。医師との関係もチームづくりにとって、大切である。
- ・みえコーチアカデミーのカリキュラムの中に、女性アスリート特有の問題やドーピングを含めたコンプライアンスのほか、部活動の短時間で結果を出す指導技術なども入れてはどうか。
- ・指導体制上の課題解決に向けた様々なサポートを実施するマルチサポートシステムは、競技団体が上手く活用できるようにしてほしい。
- ・少年種別の強化にあたっては、少年選手の獲得も必要である。そのためには、寮などを含めて高校に受け入れ体制があるかが重要である。インターハイで優勝や入賞できる見込みがあることも少年選手にとっては、魅力である。既に独自に寮を整備した競技もある。
- ・選手が選手を呼んでくることもある。強いトップアスリートを一人獲得すると、他の有力な選手情報も手に入ることもある。
- ・今の少年選手は、昔以上に強豪校へ一極集中する傾向がある。特に男子はその傾向が強い。平成30年度に新中学3年生になる少年選手のスカウトが三重とこわか国体に繋がるので、平成30年度は非常に重要な勝負の年である。
- ・必要な選手を具体的にリストアップして選手獲得を模索している競技もあれば、意識や動きがない競技もある。意識や動きのない競技に対し、どうアナウンスしていくかが重要である。
- ・越境入学に関しては、選手の才能を伸ばすのを地域が後押しできるようになり、有難いことである。さらに特区として活性化できるようにすれば、「選ばれる三重」になるのではないか。
- ・越境入学では、定員の5%を上限に募集できるが、3月の後期選抜で優秀な選手を獲得することは困難である。県外強豪私学等は、夏場に入学者を決定しているところもあり、前期選抜のみなど学校の状況に即した形で選手を獲得していきたい。
- ・部活動ガイドラインにどれだけ強制力があるのか市町が様子を見ているところもある。締め付けだけが厳しくなってはいけない。どう工夫するかである。学校の部活動ではない強化活動もある。
- ・高校から始めることが多い競技は、ジュニアクラブと高校との連携のほか、発掘も大切である。種目転向後に、インターハイで優勝する事例や大学から競技を始めてオリンピック選手になった事例もある。
- ・階級制の競技では、県内に絶対王者がいると二番手以下の選手が県外へ流出することがある。県内に留まり、階級を変更して活躍した事例もあることから、ジュニア指導者と競技団体が連携することも大切である。
- ・優秀な指導者を呼び込むことで、優秀な選手の呼び込みにも繋がるのではないか。

### 3 成年選手の育成・強化について

- ・スカウト活動とトップアスリートの獲得にあたっては、スカウト体制と予算の関連づけが重要である。

- ・選手獲得は、人脈、リクルート活動とともに、練習環境と体制づくりが重要である。受入企業としては、獲得選手やチームを盛り上げるため、従業員の応援による後押しとともに、盛り上がるようにPR活動することを大切にしている。盛り上げが重要である。
- ・三重県競技力向上対策本部内に編成部を新設し、専属スカウトを配置するとともに、編成部が競技団体のスカウト活動の中に入っていくことで、トップアスリートの獲得を着実に進めていきたい。スカウト活動に必要な経費は、予算確保している。
- ・選手獲得をアウトソーシングする手法もある。例えば、大学指導者に相談する中で、この競技はこの大学のこの監督にお願いするということもあるのではないかと。アドバイザーや外部指導者など形態は様々であるため、手法を研究する必要がある。
- ・三重とこわか国体まで3年しかないことから、より即戦力で優秀なトップアスリートを獲得することが重要である。
- ・成年選手の獲得にあたっては、大学との連携がどれだけとれるかにかかっている。如何に人脈を作るかが重要である。さらに練習できる環境があることが必要である。
- ・大学の監督を通じて、選手と話をする中で、高校時代の指導者や保護者とも話をする機会もある。チームの強化方針や強化体制のほか、三重県の魅力を上手く伝えることが重要である。
- ・県内施設で関東・関西・東海地区の強豪大学を集めた合同練習を開催し、優秀な選手に声かけするスカウトの場としている競技もある。
- ・平成30年度に新大学1年生となる選手が大学4年生で三重とこわか国体を迎えるため、強豪大学のふるさと選手を中心に強化する競技もある。
- ・如何に三重県へ来てもらうかは、選手と受入企業がWin-Winの関係をつくり、トップアスリートが喜んで三重県を選んでくれるような魅力を打ち出せるかが重要である。
- ・トップアスリートに三重県が温かく迎えてくれたという印象を持ってもらうことが大切である。三重県の良い噂や印象がアスリート間に拡がると良い。
- ・県や市町職員のほか教員の採用枠を拡大してほしい。
- ・大企業の県外事業所に勤める優秀な選手を県内事業所に異動させてほしい。

#### 4 その他

- ・市町にとって競技力向上は、県の役割という意識が強いので、県から市町に対し、県下一斉に具体的な協力要請を行うと上手くいくのではないかと。機運の盛り上がりにも繋がるのではないかと。市町は大会運営に全力を注いでいるのが現状である。
- ・チームみえのポロシャツのロゴの色が毎年変わるが、変わることによって、選手間で着用する色がバラバラとなり、一体感が失われている。統一した方が良いのではないかと。
- ・三重とこわか国体に向けた競技別の具体的な戦略が必要である。そのためには、具体的な戦力が見えていないといけない。早急に整理する必要がある。

## 平成29年度補正予算の専決処分

## 平成29年度補正予算

## 1 収入

(単位：円)

科 目	当初予算額	補正予算額	補正後予算額	説 明
負 担 金	136,166,000	△1,300,000	134,866,000	三重県負担金
収入合計	136,166,000	△1,300,000	134,866,000	

## 2 支出

(単位：円)

科 目	当初予算額	補正予算額	補正後予算額	説 明
事業費	1,963,000	0	1,963,000	本部会議、委員会、 専門委員会開催経費
	1,496,000	0	1,496,000	チームみえジュニア指定、指導 者・保護者研修プログラム
	3,000,000	200,000	3,200,000	トップジュニア育成
	83,767,000	0	83,767,000	チームみえ国体選手強化
	18,433,000	0	18,433,000	トップ選手育成支援
	8,000,000	△1,500,000	6,500,000	女性アスリートタレント発 掘・育成
	9,999,000	0	9,999,000	大学運動部、企業・クラブチー ム強化指定
	1,800,000	0	1,800,000	東京オリンピック 競技大会等選手強化指定
	1,195,000	0	1,195,000	強化指定運動部、チーム指導者 研修
	2,978,000	0	2,978,000	特別コーチ派遣
	3,521,000	0	3,521,000	みえのアスリート応援・発信
事務局費	14,000	0	14,000	事務局費
支出合計	136,166,000	△1,300,000	134,866,000	

平成30年度競技力向上対策事業

	事業名	対象
①	チームみえジュニア育成事業	ジュニア・少年選手
②	チームみえジュニア指定、指導者・保護者研修プログラム事業	
③	ジュニアクラブ強化指定事業	
④	中学校運動部強化指定事業	
⑤	高等学校運動部強化指定事業	
⑥	トップジュニア育成事業	
⑦	女性アスリートタレント発掘・育成事業	
⑧	チームみえ国体選手強化事業	少年・成年選手共通
⑨	トップ選手育成支援事業	
⑩	女性アスリートサポート事業	
⑪	大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業	成年選手
⑫	東京オリンピック競技大会等選手強化指定事業	
⑬	トップアスリート就職支援事業	
⑭	スポーツ指導員配置事業	指導者
⑮	チームみえ・コーチアカデミーセンター事業【新規】	
⑯	競技用具等整備事業	環境整備
⑰	みえのアスリート応援・発信事業	広報啓発

## チームみえジュニア育成事業 実施方針

平成30年度当初予算【20,000千円】

### 1 目的

三重とこわか国体における少年種別の選手となる小・中学生及び三重とこわか国体後も活躍が期待できる小・中学生を「チームみえジュニア」として、育成・強化を目指し、その強化活動を支援することで、長期的な競技力の向上を図ることを目的とする。

### 2 対象

三重県体育協会加盟の国民体育大会正式競技である競技団体とする。

### 3 実施内容

- (1) 各競技団体が取り組む、「チームみえジュニア」の活動を支援するため、必要な経費を配分する。
- (2) 強化費の配分については、各競技団体の強化計画と競技実績に応じた配分をする。その他、必要に応じてヒアリング等により調整を行う。
- (3) チームみえジュニアの育成・強化に対して実施する強化活動のうち、旅費、宿泊費、消耗品費、施設使用料、大会参加料、外部指導者等の招聘に係る報償費等の経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が事業の実施に必要と認めた経費の支援を予算の範囲内で行う。

### 4 年間計画

- |      |           |
|------|-----------|
| 4月   | 強化費の配分額決定 |
| 5～3月 | 強化活動支援    |

## チームみえジュニア指定、指導者・保護者研修プログラム事業 実施方針

平成30年度当初予算【1,500千円】

### 1 目的

三重とわか国体における少年種別の選手となる小・中学生及び三重とわか国体後も活躍が期待できる小・中学生を「チームみえジュニア」として指定して、ジュニア選手の意識醸成を図るとともに、競技団体、指導者、保護者が一体となって、ジュニア選手の育成・強化を図ることを目的とする。

### 2 対象

県内競技団体からの推薦を受け、全国大会等で活躍が期待できるジュニア選手とその指導者・保護者とする。

### 3 実施内容

#### (1) 指定証の交付

指定するジュニア選手に対し、三重県競技力向上対策本部長（知事）から、「チームみえジュニア指定証」を交付する。

#### (2) 研修プログラム

##### ①全体会

・「チームみえジュニア」としての意識醸成を目的とした研修を実施する。

##### ②研修会

[ジュニア選手・指導者対象]

・選手間の交流を図るとともに、本県を代表する選手としての自覚を促すプログラムを実施する。

[保護者対象]

・ジュニア選手のサポート体制の充実を図るプログラムを実施する。

### 4 年間計画

6～7月 「チームみえジュニア指定証」交付式、研修会の開催

## ジュニアクラブ強化指定事業 実施方針

平成30年度当初予算【3,000千円】

### 1 目的

三重とわか国体において、少年種別の中心となる中学生選手の育成・強化を目指し、その強化活動を支援することで、中学生選手の長期的な競技力の向上を図ることを目的とする。

### 2 対象

国民体育大会の正式競技で中学生選手が在籍する県内のジュニアクラブとする。

### 3 実施内容

- (1) 強化指定の決定については、別途定める「ジュニアクラブ強化指定事業 選考要領」において、三重県競技力向上対策本部が行う。
- (2) 指定については、平成30年4月から平成31年3月までの単年度指定とする。
- (3) 補助対象については、全国大会での活躍を目的とした中学生選手の強化活動のうち、旅費、宿泊費、指導者の報償費、消耗品費、施設使用料、強化練習の一貫として参加する大会参加料、医科学スタッフ、技術指導スタッフ等の経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が必要と認めた経費の支援を予算の範囲内で行う。

### 4 年間計画

- |      |                |
|------|----------------|
| 4月   | 強化指定ジュニアクラブの決定 |
| 5～3月 | 強化活動支援         |

## ジュニアクラブ強化指定事業 選考要領

### 1 目的

この要領は、三重県競技力向上対策本部が「ジュニアクラブ強化指定事業」に係る強化指定ジュニアクラブを選考するために、必要な事項を定めるものとする。

### 2 選考

選考は、三重県競技力向上対策本部事務局の原案に基づき、三重県競技力向上対策委員会の委員が行うものとする。

#### (1) 選考基準

- ① 平成33年三重とこわか国体における少年種別の中心的な存在となり、過去2年間程度において全国入賞等の実績を持つ選手が在籍するジュニアクラブ。
- ② 平成33年三重とこわか国体における少年種別において、活躍が期待できる選手が多数在籍し、強化指定することで競技力の向上が見込めるジュニアクラブ。
- ③ 平成33年三重とこわか国体における少年種別において、競技得点の獲得が見込めると判断し、特に強化指定を必要とするジュニアクラブ。

#### (2) 選考方法

選考委員は、強化指定候補のジュニアクラブについて、三重とこわか国体における少年種別の候補となる選手の実績や今後の活躍を総合的に判断し、選考を行うこととする。



平成30年度ジュニア強化指定クラブ

競技（種目）	ジュニアクラブ
水泳（競泳）	イトマン名張
水泳（飛込）	三重ダイビングクラブ
水泳（水球）	三重ウォーターポロスターズ
水泳（シンクロ）	みえA. S. C
テニス	三重グリーンテニスクラブ
ボート	宮川ボートクラブ
ボクシング	四日市ボクシングジム
体操（競技）	相好体操クラブ
レスリング	一志ジュニアレスリング教室
レスリング	四日市ジュニアレスリングクラブ
レスリング	いなべレスリングクラブ
ウエイトリフティング	みえウエイトリフティングジュニアクラブ
卓球	松生TTC
相撲	津相撲クラブ
フェンシング	鳥羽フェンシングクラブ
山岳	KO-WALL三重
なぎなた	三重武道館クラブ
ボウリング	鈴鹿ジュニアボウリングクラブ

18クラブ

## 中学校運動部強化指定事業 実施方針

平成30年度当初予算【1,263千円】

### 1 目的

三重とこわか国体で少年種別の中心となる中学生選手の育成・強化を図り、その強化活動を支援することで、中・長期的な中学生選手の競技力向上を図る。また、高等学校運動部との連携を促し、ジュニア・少年選手の強化を行う。

### 2 対象

三重県中学校体育連盟（以下、「県中体連」という。）加盟の競技専門部に所属の中学校運動部とする。

### 3 実施内容

(1) 強化指定の決定については、別途定め「中学校運動部強化指定事業 選考要領」において、三重県競技力向上対策本部が行う。

#### (2) 指定期間

平成30年4月から平成31年3月までの単年度指定とする。

#### (3) 補助対象

強化指定運動部に対して、全国大会等での活躍を目的とした強化活動のうち、旅費、宿泊費、消耗品費、施設使用料、大会参加料、外部指導者等の招聘に係る報償費等の経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が事業の実施に必要と認めた経費の支援を予算の範囲内で行う。

### 4 年間計画

4月上旬	強化指定運動部の決定
5月	強化指定証交付式
4月～3月	強化活動の支援

## 中学校運動部強化指定事業 選考要領

### 1 目的

この要領は、三重県競技力向上対策本部が「中学校運動部強化指定事業」に係る強化中学校運動部を選考するために、必要な事項を定めるものとする。

### 2 選考

選考は、三重県競技力向上対策本部事務局の原案に基づき、三重県競技力向上対策委員会の委員が行うものとする。

#### (1) 選考基準

- ①国民体育大会の正式種目のうち、三重県中学校体育連盟加盟の競技専門部に所属の中学校運動部とする。
- ②全国中学校体育大会での入賞や東海中学校体育大会での優勝等の実績があり、三重とこわか国体に向けて、少年種別の候補選手となる中学生選手の育成・強化が十分見込める運動部とする。
- ③県競技団体のジュニア選手の育成・強化方針の中に位置づけられ、三重とこわか国体に向けた競技力向上に寄与する見込みがある中学校運動部とする。

#### (2) 選考方法

選考委員は、強化指定候補の中学校運動部について、三重とこわか国体における候補選手となるターゲットエイジの実績や今後の活躍を総合的に判断し、選考を行うこととする。

平成30年度中学校強化指定運動部

競技	男子	女子
陸上競技	多気町松阪市学校組合立多気中学校	
ソフトテニス	紀宝町立矢淵中学校	
ソフトボール	-	度会町立度会中学校
バドミントン	伊勢市立小俣中学校	

4校4部

## 高等学校運動部強化指定事業 実施方針

平成30年度当初予算【19,000千円】

### 1 目的

三重とわか国体などの全国・国際スポーツ競技大会において活躍するトップアスリートの育成を目指して、育成・強化の中心となることが期待できる高等学校運動部を指定し、強化活動を支援することで、高校生アスリートの競技力向上を図ることを目的とする。

### 2 対象

次のいずれかに該当する高等学校運動部を対象とする。

- (1) 国民体育大会の正式競技であり、三重県高等学校体育連盟（以下、「県高体連」という。）に加盟する競技専門部、または三重県体育協会に加盟する競技団体（以下、「県競技団体」という。）に所属する高等学校運動部
- (2) 三重県高等学校野球連盟（以下、「県高野連」という。）に所属する高等学校硬式野球部

### 3 実施内容

#### (1) 指定期間

- ①指定期間は、三重県競技力向上対策基本方針に基づき、次の3期とする。
  - ・第1期：平成26年度～平成27年度（基盤・体制づくり期）
  - ・第2期：平成28年度～平成30年度（育成期）
  - ・第3期：平成31年度～平成33年度（躍進期）
- ②指定を受けた高等学校運動部は、原則として、各期の最終年度まで継続して指定し、各期の最終年度に、見直すこととする。
- ③指定期間内であっても、三重県競技力向上対策本部（以下「対策本部」という。）が必要と認めた場合は、指定する高等学校運動部の追加、または指定の取り消しを行うことがある。
- ④硬式野球競技については、単年度の指定とする。

#### (2) 指定方法

対策本部は、県高体連、または県高体連に競技専門部がない競技については、県競技団体から推薦を受けた高等学校運動部を指定候補として、三重県教育委員会（以下「県教委」という。）と協議したうえで、次のように指定する。

- ①指定候補について、活動状況や国体強化の中心となる位置づけ、指定期間中の全国大会における入賞の見込等を踏まえて、下記のとおり区分して指定する。また、この指定区分は、年度ごとに見直すこととする。
  - ・S強化指定運動部：全国大会において、上位入賞が期待できる運動部
  - ・A強化指定運動部：全国大会において、入賞が期待できる運動部
  - ・B強化指定運動部：全国大会において、将来、活躍が期待できる運動部

なお、指定候補であっても、活動状況や大会における実績等から、この方針の目的に合致しないと判断する場合は、指定しないことがある。

②指定候補以外でも、この方針の目的に合致すると認められる高等学校運動部を県高体連及び県競技団体等と協議のうえ、指定することができる。

なお、硬式野球競技については、県高野連から、平成30年度に全国大会において活躍が期待できる高等学校硬式野球部の推薦を受け、対策本部が県教委と協議したうえで、「高等学校硬式野球特別指定運動部」として指定する。

### (3) 補助対象

強化指定運動部に対して、全国大会等での活躍を目的とした強化活動のうち、旅費、宿泊費、消耗品費、施設使用料、大会参加料、外部指導者等の招聘に係る報償費等の経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が事業の実施に必要と認めた経費に対する補助を予算の範囲内で行う。

## 4 年間計画

3月下旬	強化指定運動部の決定
4～5月	指定証交付式
4月～3月	強化活動の支援

## 高等学校運動部強化指定事業強化指定候補運動部 推薦要領

### 1 対象

下記のいずれかに該当する高等学校運動部を対象とする。

- (1) 国民体育大会の正式競技で、三重県高等学校体育連盟（以下、「県高体連」という。）に加盟する競技専門部、または三重県体育協会に加盟する競技団体（以下、「県競技団体」という。）に所属する高等学校運動部
- (2) 三重県高等学校野球連盟（以下、「県高野連」という。）に所属する高等学校硬式野球部

### 2 推薦基準

- (1) 三重とこわか国体などの全国・国際スポーツ競技大会において活躍するトップアスリートの育成に向けて、少年種別における強化の中心となることが期待できる高等学校運動部であること。
- (2) 硬式野球競技については、平成30年度に全国大会において活躍が期待できる高等学校硬式野球部であること。

### 3 推薦方法

- (1) 県高体連の各競技専門部は、推薦基準に基づき、県競技団体と十分協議のうえ、高等学校運動部を県高体連に推薦する。
- (2) 県高体連は、各競技専門部の推薦を取りまとめ、三重県競技力向上対策本部（以下、「対策本部」という。）に推薦する。
- (3) 県高体連に競技専門部がない競技については、県競技団体が推薦基準に基づき、対策本部に推薦する。
- (4) 推薦する高等学校運動部は、原則として、男子、女子で区別し、それぞれで1部とする。ただし、同じ高等学校で男子、女子ともに推薦基準を満たし、かつ、男女合同で活動している運動部については、男女を区別することなく、ひとつの運動部として推薦することができる。
- (5) 硬式野球競技については、県高野連が1部を上限に、対策本部に推薦する。

平成30年度高等学校強化指定運動部

	競技(種目)	男子	女子
1	陸上競技	宇治山田商業	
		四日市工業 久居	松阪商業 -
		伊賀白鳳	四日市商業
2	水泳(競泳)	津田学園 尾鷲	
	水泳(飛込)	-	-
	水泳(水球)	四日市中央工業 稲生	- -
	水泳(シクロバイドスイミング)	-	-
3	サッカー	四日市中央工業	三重
4	テニス	四日市工業	四日市商業
5	ボート	-	-
6	ホッケー	白子	-
7	ボクシング	久居	
		明野	-
8	バレーボール	松阪工業	津商業 三重
		暁	
9	体操(競技)	-	-
	体操(新体操)	-	-
10	バスケットボール	四日市工業	四日市商業 いなべ総合学園
		いなべ総合学園	
11	レスリング	朝明	-
12	セーリング	津工業	-
13	ウエイトリフティング	亀山	
		四日市工業 四日市中央工業	- -
14	ハンドボール	四日市工業	四日市商業
15	自転車	朝明	-
16	ソフトテニス	三重 高田	三重 高田
17	卓球	白子	
18	相撲	宇治山田商業	-
19	馬術	高田	
20	フェンシング	海星	津東
21	柔道	四日市中央工業	-
		名張	名張
22	ソフトボール	四日市工業	伊勢学園 津商業
		皇學館 暁	
23	バドミントン	皇學館 暁	
24	弓道	松阪工業	伊勢学園
25	ライフル射撃	久居	
26	剣道	三重	鈴鹿
		朝明	四日市メリノール学院
27	ラグビーフットボール	四日市工業	-
28	山岳	-	-
29	カヌー	桑名西	
30	アーチェリー	四日市四郷	
31	空手道	-	四日市商業
32	銃剣道	皇學館	-
33	クレー射撃	-	-
34	なぎなた	-	稲生
35	ボウリング	津田学園	-
36	ゴルフ	津田学園	
		三重	-
37	スケート	-	-
38	アイスホッケー	-	-
39	スキー	-	-
40	軟式野球	高田	-
41	硬式野球	三重	-



## トップジュニア育成事業 実施方針

平成30年度当初予算【3,000千円】

### 1 目的

県民の皆さんからの寄附金を財源として、全国大会等で優秀な成績を収め、将来、国民体育大会やオリンピック等の大規模大会での活躍が期待されるジュニア選手を対象に、強化活動を支援することにより、選手の育成・強化を図ることを目的とする。

### 2 対象

国民体育大会やオリンピックの正式種目で、国内外の大規模な大会で活躍が期待できる本県の中学校及び高等学校に在籍する選手および本県出身の19歳以下の選手\*1とする。

### 3 実施内容

#### (1) 強化選手の指定

三重県競技力向上対策本部長（知事）は、競技団体の推薦を受けて、将来、国民体育大会やオリンピック等の大規模大会での活躍が期待される本県の中学生、高校生および本県出身の19歳以下の選手\*1を強化指定する。

#### (2) 補助対象

指定選手に対しては、全国大会等での活躍を目的とした強化活動のうち、旅費、宿泊費、指導者の報償費、施設利用料、強化練習の一貫として参加する大会参加料、消耗品費、医科学スタッフ、技術スタッフ等の経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が必要と認めた経費の支援を予算の範囲内で行う。

### 4 年間計画

4月から随時	寄附金の募集
4月	第1次強化指定選手の推薦・選定・決定
7月	第2次強化指定選手の推薦・選定・決定
9月	第3次強化指定選手の推薦・選定・決定

\*1) その年度の4月1日時点の年齢とし、原則として、学生アスリートとする。

トップジュニア育成事業に係る「チームみえスーパージュニア」  
指定候補選手 推薦要領

1 対象

国民体育大会やオリンピックの正式種目で、国内外の大規模な大会で活躍が期待できる県内中学校および高等学校に在籍する選手および本県出身の19歳以下の選手\*<sup>1</sup>とする。

2 推薦基準

全国大会で優秀な成績を収め、今後も全国大会や国際大会などの大規模な大会において活躍が期待され、次の基準のいずれかを満たしている選手とする。

【中・高校生枠】(本県の中学校および高等学校に在籍する選手)

- (1) 平成29年度もしくは30年度の全国大会\*<sup>2</sup>で優勝、または、平成30年度の国際大会\*<sup>3</sup>で3位入賞以上の実績があり、平成30年度に日本代表として国際大会\*<sup>3</sup>への出場が決定(内定)している。
- (2) 団体競技は、平成30年度に日本代表として、国際大会\*<sup>2</sup>に出場するなど、顕著な活躍が見られる選手を対象とする。
- (3) この他、特に顕著な実績を収めた選手がいる場合は、三重県競技力向上対策本部が別途指定する。

【U20枠】(本県の中学校もしくは高等学校を卒業した19歳以下の選手\*<sup>1</sup>)

- (1) 平成29年度に開催された全日本選手権大会において3位以上の成績を収めている。
- (2) 平成29年度に開催された全国高等学校総合体育大会および国民体育大会において優勝している。
- (3) 平成29年度に開催された国際大会\*<sup>2</sup>で3位以上の成績を収めており、かつオリンピックや平成33年三重とこわか国体において入賞が狙える。
- (4) この他、特に顕著な実績を収めた選手がいる場合は、三重県競技力向上対策本部が別途指定する。

\* 1) その年度の4月1日時点の年齢とし、原則として、学生アスリートとする。但し、JOCエリートアカデミー出身者は、本県の小学校を卒業した者とする。

\* 2) 全国大会

- ① 国民体育大会
- ② 全国中学校体育大会、ジュニアオリンピック
- ③ 全国高等学校総合体育大会  
全国高等学校選抜選手権大会
- ④ ①・②・③と同じ競技レベルと認められる大会

\* 3) 国際大会

- ① 世界ジュニア・ユース大会、  
アジアジュニア・ユース大会
- ② ①と同じ競技レベルと認められる大会

### 3 推薦方法

- (1) 各競技団体は、上記2の推薦基準を満たすと判断できる場合、三重県競技力向上対策本部に対象となる選手を推薦することができる。
- (2) 県内に競技団体がないオリンピック正式種目のうち、上記2の推薦基準を満たすと判断できる場合は、所属する団体（クラブチーム等）より、三重県競技力向上対策本部に推薦することができる。

### 4 その他

指定選手の選考については、各競技団体等の推薦があった選手をもとに、競技実績・活動状況等により、三重県競技力向上対策委員会で行う。

## 女性アスリートタレント発掘・育成事業 実施方針

平成30年度当初予算【9,602千円】

### 1 目的

優れた資質を有する女子小中学生を発掘し、様々なプログラムを通じて育成することで、国民体育大会をはじめとした国内大会やオリンピック、ワールドカップなどの国際大会において活躍することができるアスリートの輩出を目的とする。

また、トップアスリートに必要な資質である高い意識や行動力を培うことで、社会生活の様々な場面でリーダーとして活躍できる人材として育成を図ることを目的とする。

### 2 対象（競技）

第71回岩手国体以降の女子種別において、新たに正式種目になる競技のうちの1競技とする。

### 3 実施内容

- (1) 三重県競技力向上対策本部が県関係者、市町関係者、スポーツ団体関係者、学識経験者、競技団体関係者（中央競技団体、県競技団体）、日本スポーツ振興センター等と連携した運営委員会を行うとともに、プログラム部会と選考部会を行う。
- (2) 運営委員会にて、事業の内容及び計画及びタレントの選考等を決定する。
- (3) プログラム部会にて、育成プログラムの内容及び計画等を決定する。
- (4) 選考部会にて、オーディションの実施及びタレントの選考原案の作成を行う。
- (5) 実施競技団体は事務局と連携し、主体的に事業を実施する。

### 4 年間計画

- 7月 タレントの募集開始（～9月末日）
- 10月 1次オーディション実施
- 11月 2次オーディション実施
- 12月 選考部会、プログラム部会、運営委員会  
「年間事業計画の決定」「タレントの決定」
- 1月 認定証授与式  
※週3回程度の専門プログラムの継続実施  
※年20コマ程度の教育・育成プログラムの継続実施

## チームみえ国体選手強化事業 実施方針

平成30年度当初予算【85,000千円】

### 1 目的

平成30年度福井国体において男女総合成績（天皇杯順位）10位台の獲得と総合得点1,100点をめざすため、活躍が期待できる本県代表選手（チームみえ）に対し、重点的な強化に取り組むことを目的とする。

### 2 対象

三重県体育協会加盟団体のうち、国民体育大会の正式競技である競技団体とする。

### 3 実施内容

- (1) 各競技団体における事業計画書を基に、種別ごとに区分を行う。
- (2) A・B群に区分された競技種別に対して、愛媛国体における競技成績の見込や強化計画等に基づき、重点的に強化費を配分し、競技団体が実施する国民体育大会に向けた強化活動を支援する。
- (3) 支援期間は一年間とするが、東海ブロック大会後、本国体後に必要に応じて強化計画の見直しを行う。
- (4) 各競技団体は、平成30年度福井国体、平成31年度茨城国体で成果があげられるよう、本大会に重点を置いた強化活動を進めることとする。
- (5) 支援する経費は、旅費、宿泊費、消耗品費、使用料及び賃借料、大会参加料、外部指導者等の招聘に係る報償費等の経費、全国トップレベルのチームの招聘に係る経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が事業の実施に必要と認めた経費とする。
- (6) C・D群に区分された競技種別であっても、東海ブロック大会、本国体の競技成績によっては、強化費を配分することがある。

### 4 年間計画

4月	配分額の通知 交付申請書の提出 実施事業の支援（4月～東海ブロック大会～本国体）
7～10月	国体の競技成績による強化計画の見直し 実施事業の支援（本国体～3月）

※ 区分について

	区分の目安	取組
A群	安定して得点しており、平成33年まで引き続き得点が見込め、さらに上位入賞を狙うことができる競技、種別。	さらに上位入賞を狙うために必要な取組を行います。
B群	国体で入賞レベルに達してきており、平成30年福井国体で入賞を狙うことができる競技、種別。	確実に入賞するために必要な取組を行います。
C群	本国体で2～3年先に確実に入賞できるレベルに到達することを狙う競技、種別。	中長期の計画的な取組を行います。
D群	強化体制の整備を必要としており、主体的な強化に取り組めるようにする必要がある競技、種別。	主体的に強化が図れるよう、自立にむけた取組を行います。

## トップ選手育成支援事業 実施方針

平成30年度当初予算【20,000千円】

### 1 目的

育成期の最終年度において、各競技団体の年間を通じた選手強化や普及活動等を支援し、全国大会入賞レベル相当の競技力獲得及び競技普及を図ることを目的とする。

### 2 対象

三重県体育協会加盟団体のうち、国民体育大会の正式競技である競技団体とする。

### 3 実施内容

- (1) 各競技団体における事業計画書を基に、種別ごとに区分を行う。
- (2) C・D群に区分された競技種別に対し、三重とこわか国体に向けた強化計画や年度目標等に基づき、計画的に強化費を配分し、競技団体が実施する国民体育大会に向けた強化活動を支援する。
- (3) 支援期間は一年間とし、各競技団体が年間を通じて取り組む計画的な強化及び普及活動を支援する。
- (4) 各競技団体は、2～3年先に成果があげられるよう、計画的・戦略的に強化活動を進めることとする。
- (5) 支援する経費は、旅費、宿泊費、消耗品費、使用料及び賃借料、大会参加料、外部指導者等の招聘に係る報償費等の経費、全国トップレベルのチームの招聘に係る経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が事業の実施に必要と認めた経費とする。
- (6) 東海ブロック大会、本国体において目覚ましい成果が見られた場合、チームみえ国体選手強化事業により、強化費を配分することがある。

### 4 年間計画

4月 配分額の通知  
以降 交付申請書の提出  
実施事業の支援

※区分について

	評価の目安	取組
A群	安定して得点しており、平成33年まで引き続き得点が見込め、さらに上位入賞を狙うことができる競技、種別。	さらに上位入賞を狙うために必要な取組を支援します。
B群	国体で入賞レベルに達してきており、平成30年福井国体で入賞を狙うことができる競技、種別。	確実に入賞するために必要な取組を支援します。
C群	本国体で2～3年先に確実に入賞できるレベルに到達することを狙う競技、種別。	中長期の計画的な取組を支援します。
D群	未成熟で強化体制の整備を必要としており、主体的な強化に取り組めるようにする必要がある競技、種別。	主体的に強化が図れるよう、自立にむけた取組を支援します。

## 女性アスリートサポート事業 実施方針

平成30年度当初予算【700千円】

### 1 目的

女性アスリートが競技を継続して取り組めるよう、女性特有の諸課題について女性アスリート、指導者及び保護者など関係者が知識習得や意識向上を図ることで、サポート体制の構築を図ることを目的とする。

### 2 対象

三重県体育協会加盟団体のうち、国民体育大会の正式競技である競技団体およびその団体に所属する女性アスリート、指導者及び保護者等とする。  
(新たに正式競技として導入される競技を含む。)

### 3 実施内容

女性アスリート、指導者及び保護者向けの研修会を開催し、女性アスリートが継続して競技に取り組むうえでの不安や悩みの解消に繋がる知識習得や意識向上を図る。

### 4 年間計画

5月～2月 女性アスリート、指導者、保護者向けの研修会を実施

## 大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業 実施方針

平成30年度当初予算【9,000千円】

### 1 目的

三重とこわか国体において、天皇杯・皇后杯の獲得を目指すため、平成33年に各競技の成年種別で中心となり、且つ平成30年の福井国体以降に活躍が期待できるチームの指定を行い、成年選手の重点的な競技力向上を図ることを目的とする。

### 2 対象

国民体育大会の正式競技に取り組んでいる大学運動部、企業・クラブチーム等（以下、「チーム」という。）とする。

### 3 実施内容

#### (1) 指定期間

平成30年4月から平成31年3月までの期間とする。

#### (2) 指定基準

三重とこわか国体に向けて、競技団体が強化の中心として位置づけ、国民体育大会での活躍が期待できるチーム。ただし、次の①～③に該当するチームで、競技団体が主体となるチームを除く。

- ①団体競技（チームスポーツ）は、国民体育大会（東海ブロック大会を含む）のエントリー数の半数以上を占めているチーム。
- ②団体競技（チームスポーツを除く）は、団体チームとして大会に出場しているチーム。
- ③個人競技は、複数の選手が在籍するチーム。

#### (3) 指定方法

強化指定チームについては、三重県競技力向上対策本部が所属競技団体と協議を行ったうえで、三重県競技力向上対策委員会において決定する。

#### 【A強化指定】

三重とこわか国体で中心となり、平成30年の福井国体において入賞できるチーム。

#### 【B強化指定】

三重とこわか国体で中心となり、平成30年の福井国体において入賞が期待できるチーム。

#### 【C強化指定】

- ①三重とこわか国体で中心となり、三重とこわか国体において入賞が期待できるチーム。
- ②国民体育大会（東海ブロック大会を含む）に出場できていない成年種別において、前年度に新たにチーム結成を行い、三重県代表として出場するチーム。

#### (4) 補助対象

指定されたチームには、全国大会での活躍を目的とした強化活動のうち、旅費、宿泊費、指導者の報償費、施設使用料、強化練習の一貫として参加する大会参加料、消耗品費、医科学スタッフ、技術指導スタッフ等の経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が必要と認めた経費の支援を予算の範囲内で行う。

### 4 年間計画

5月 指定証交付  
随時 強化活動支援



平成30年度大学運動部、企業・クラブチーム強化指定チーム

【A強化指定】

	チーム	競技
1	A G F 陸上競技部	陸上競技
2	N T N 陸上競技部	陸上競技
3	デンソー女子陸上長距離部	陸上競技
4	伊賀フットボールクラブくノ一	サッカー
5	相好体操クラブ	体操
6	三重バイオレットアイリス	ハンドボール
7	名張乗馬クラブ	馬術
8	北勢ライディングファーム	馬術
9	株式会社安永弓道部	弓道
10	P E A R L S	ラグビーフットボール

【B強化指定】

	チーム	競技
11	エクセディ卓球部	卓球

【C強化指定】

	チーム	競技
12	ヴィアティン三重	バレーボール
13	みえ高田V C s a l a	バレーボール
14	三重県警察 (ライフル射撃)	ライフル射撃
15	三重県警察 (剣道)	剣道
16	名鉄乗馬クラブクレイン東海	馬術
17	皇學館大学柔道部	柔道

## 東京オリンピック競技大会等選手強化指定事業 実施方針

平成30年度予算【2,000千円】

### 1 目的

全国・国際スポーツ大会で活躍するトップアスリートを強化指定し、合宿や強化練習等の支援を行うことで、本県への帰属意識を高めるとともに、東京オリンピック競技大会及び三重とこわか国体等に向けた成年選手の競技力向上を推進することを目的とする。

### 2 対象

三重とこわか国体における正式競技に取り組んでいる20歳以上の大学生（大学院生を含む）で、次に掲げる条件を満たす者とする。

- (1) 「チームみえ」の一員として、三重とこわか国体での活躍が特に期待できる者
- (2) 東京オリンピック競技大会や世界選手権大会等の世界大会での活躍が期待できる者

ただし、東京オリンピック競技大会の正式競技以外の競技に取り組んでいる選手については、条件（1）のみを満たすこととする。

### 3 実施内容

- (1) 強化指定選手の決定については、別途定める「東京オリンピック競技大会等選手強化指定事業 選考要領」において、三重県競技力向上対策本部が行う。
- (2) 指定については、平成30年4月から平成31年3月までの単年度指定とする。
- (3) 補助対象については、全国・国際スポーツ大会での活躍を目的とした強化活動のうち、旅費、宿泊費、施設使用料、強化練習の一貫として参加する大会参加料、消耗品費、医科学スタッフ、技術指導スタッフ等の経費の支援を予算の範囲内で行う。

### 4 年間計画

- 4月 強化指定選手の選考及び決定
- 5月 強化指定証交付
- 随時 強化活動支援

## 東京オリンピック競技大会等選手強化指定事業 選考要領

### 1 目的

この要領は、三重県競技力向上対策本部が「東京オリンピック競技大会等選手強化指定事業」に係る強化指定選手を選考するために、必要な事項を定めるものとする。

### 2 選考

選考は、三重県競技力向上対策本部事務局の原案に基づき、三重県競技力向上対策委員会の委員が行うものとする。

#### (1) 選考基準

選考は、「東京オリンピック競技大会等選手強化指定事業実施方針」の目的及び対象を踏まえることとし、選考にあたっては、次の点に留意するものとする。

なお、大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業の指定チームに所属する者、企業等に勤務している者については対象外とする。

#### 【継続指定枠】

平成29年度に指定を行った者で、三重県代表選手の一員として平成30年度福井国体（以下、「福井国体」という。）以降の大会において入賞が見込める者

#### 【新規指定枠】

- ①平成29年度に開催された全日本選手権大会において3位以上の成績を収めた者で、三重県代表選手の一員として福井国体以降の大会において入賞が見込める者
- ②上記大会より上位の大会において、顕著な成績を収めた者についても選考の対象とする。

#### (2) 選考方法

選考委員は、強化指定候補選手について、三重とこわか国体や東京オリンピック競技大会等での活躍が期待される強化指定候補選手の実績や今後の活躍を総合的に判断し、選考を行うこととする。

なお、決定には、選考委員の過半数の同意を必要とする。

平成30年度東京オリンピック競技大会等選手強化指定選手

	名前	年齢 (学年)	所属	専門競技	指定枠
1	藤波 勇飛	21 (4年)	山梨学院大学	レスリング	継続
2	石井 未来	20 (3年)	東京国際大学	ウエイトリフティング	継続
3	城山 聖羅	20 (3年)	東洋大学	相撲	継続
4	向田 真優	20 (3年)	至学館大学	レスリング	継続
5	山門 正宜	24 (D1年)	名古屋産業大学院	ウエイトリフティング	新規
6	山本 真鼓	21 (4年)	名古屋産業大学	ウエイトリフティング	新規

※年齢及び学年は平成30年4月1日現在のものとする。

## トップアスリート就職支援事業 実施方針

平成30年度当初予算【14,500千円】

### 1 目的

全国・国際スポーツ大会で活躍するトップアスリートまたはその指導者に対し、県内企業等への就職支援を行い、成年種別における競技得点を確保することで、三重とこわか国体において天皇杯・皇后杯を獲得するとともに、大会終了後も安定した競技力を確保することを目的とする。

### 2 対象選手

三重とこわか国体の正式競技に取り組んでいる選手またはその指導者で、次に掲げる条件を満たし、採用後は「チームみえ」の一員として国民体育大会において入賞もしくは入賞に導く能力を有する者とする。

国民体育大会や全日本選手権大会もしくはこれらに準ずる大会において、個人競技・団体競技ともに8位以上の成績を収めた成年選手またはその指導者

※本県の成年選手の競技力向上に必要な存在であり、三重県競技力向上対策本部が特別に認めた者については、上記の限りではないこととする。

※成績については、高等学校卒業後のものに限ることとする。

### 3 対象企業

県内に本社または事業所を有し、全国・国際スポーツ大会で活躍するトップアスリートを採用する意思のある企業等とする。

### 4 実施内容

- (1) 三重とこわか国体に向けた成年選手強化に係る取組を県内企業に説明し、トップアスリートの採用依頼を行う。
- (2) 求人・求職に係る情報の管理を行う。
- (3) 競技団体から推薦のあったトップアスリートに対し、書類審査を行う。
- (4) 社業と競技活動の両立が図られるよう、トップアスリートに対し、面談を行う。
- (5) 企業及びトップアスリートにとって有益なマッチングが図られるよう、調整を行う。
- (6) 企業及びトップアスリートに推薦者・推薦企業の打診を行う。
- (7) 採用選考の調整を行う。
- (8) トップアスリートが培ってきた知識や経験を発揮するとともに、競技活動にも集中して取り組めるよう、企業に対し、フォローアップを行う。

### 5 年間計画

4月以降、随時、実施内容の取組を進めることとする。

## スポーツ指導員配置事業 実施方針

平成30年度当初予算【45,885千円】

### 1 目的

全国・国際スポーツ大会で活躍するトップアスリートまたはその指導者を競技団体が実施する強化練習や合宿等に派遣することで本県選手の競技力向上を図ること、また、現役のトップアスリートとして成年種別の競技得点を獲得することを目的とする。

### 2 対象

三重とこわか国体の正式競技に取り組んでいるトップアスリートまたはその指導者で、次に掲げる条件を満たし、採用後は「チームみえ」の一員として国民体育大会において入賞もしくは入賞に導く能力を有する者とする。

国民体育大会や全日本選手権大会もしくはこれらに準ずる大会において、個人競技は3位以上、団体競技は8位以上の成績を収めた成年選手またはその指導者

※本県の成年選手の競技力向上に必要な存在であり、三重県競技力向上対策本部が特別に認めた者については、上記の限りではないこととする。  
※選手としての成績については、高等学校卒業後のものに限ることとする。

### 3 実施内容

- (1) スポーツ指導員の採用については、三重県競技力向上対策本部及び三重県体育協会が協議を行ったうえで決定する。
- (2) 三重県体育協会は、スポーツ指導員の勤務管理を行うとともに、本県選手の競技力向上を図るため、スポーツ指導員を競技団体が実施する強化練習や合宿等に派遣する。
- (3) スポーツ指導員の活動に係る旅費については、予算の範囲内で支出する。

### 4 年間計画

- |     |                      |
|-----|----------------------|
| 4月  | 協定書の締結               |
| 4月～ | 競技団体が実施する強化練習や合宿等に派遣 |

## チームみえ・コーチアカデミーセンター事業 実施方針

平成30年度当初予算【35,000千円】

### 1 目的

三重とわか国体における天皇杯・皇后杯の獲得やその後の安定的な競技力の確保のため、少年種別の競技力向上にむけた指導者の指導力の向上や意識改革を図るとともに、その指導を多面的に支える指導体制の構築を図ることを目的とする。

### 2 対象

三重県体育協会加盟団体のうち、国民体育大会の正式競技である競技団体の指導者とする

### 3 実施内容

#### (1) みえコーチアカデミー

- ①年間を通じて、JOC、JSC等でも活躍されている国内トップクラスのコーチを招聘した研修やディスカッション等
- ②受講者間の運動観察・実践指導（県内研修）
- ③国内トップレベルの実践指導の研修（県外研修）
- ④ホームワークによる実践の振り返りや強化戦略プランの作成等

#### (2) みえマルチサポートシステム

実践指導における指導体制上の課題の解決に向けた様々なサポートの実施と検証

### 4 年間計画

4月	スタートアップミーティング
4月～	サポートシステムによる支援
7月	キャンプⅠ
年間（2回）	県内運動観察・実践指導
年間（1回）	県外研修
11月	キャンプⅡ
3月	コンプリートミーティング
年間	ホームワークによるカンファレンス

## チームみえ・コーチアカデミーセンター事業 開催要項

### 1 目的

指導者の育成・確保は平成25年5月策定した競技力向上対策基本方針の柱の一つとして位置づけられている。本アカデミー事業は三重とこわか国体における天皇杯・皇后杯の獲得、及びその後の安定的な競技力の確保のため、少年種別の競技力向上にむけた指導力の向上や意識改革を図るとともに、その指導を多面的に支える指導体制の構築を図ることを目的とする。

#### ◇コンセプト

- ①みえのスポーツを牽引する品格・資質を兼ね備えたトップ指導者を養成する。
- ②「全国トップ」を基準とした技術・戦略・強化指導を行えるとともに、主体性・克己心・協同性・規範意識等のフェアプレーの精神を養い、さらに、子どもの健全な育成及び人格形成に寄与するトップ指導者を養成する。
- ③知識や情報の一方通行ではなく、受講者と講師、受講者と受講者による双方向での情報交換を主体とし、指導現場においては選手と指導者とアントラージュ等によるマルチ方向が意識できるトップ指導者を養成する。
- ④トップ指導者が抱える指導体制上の課題に対応するため、必要な専門スタッフを配置・派遣し、より計画的・戦略的な強化が図られるよう、指導体制を整備する。
- ⑤養成されたトップ指導者と整備された指導体制により、競技及びスポーツの枠を超えた交流・連携を通して三重の競技力が向上されるとともに、育成された選手の活躍により元気な三重が醸成されることを目指す。

### 2 対象

公益財団法人三重県体育協会加盟団体のうち国民体育大会の正式競技で、三重とこわか国体の監督等主たる指導者として競技団体の長から認定された者とする。

### 3 主催

三重県競技力向上対策本部 公益財団法人三重県体育協会

### 4 実施内容

#### (1) みえコーチアカデミー

- ①三重とこわか国体に向けた強化戦略プランの作成
- ②国内トップクラスの講師を招聘した研修やディスカッション等
- ③県外研修による優秀指導者実践観察等
- ④県内指導者の運動観察・実践指導・ディスカッション及び有識者による指導助言
- ⑤プレゼンテーション及びディスカッション
- ⑥各競技団体における指導体制等の分析や強化戦略の課題に対する指導助言（カンファレンス）
- ⑦ブラッシュアップ研修による効果の定着と強化戦略の見直し

#### (2) みえマルチサポートシステム

みえコーチアカデミーにおいて明らかになった指導体制上の課題解決に向けた様々なサポートの実施と検証



- ①アシスタントコーチ派遣
- ②アドバイザー派遣
- ③メンタルトレーナー派遣
- ④医・科学トレーナー派遣
- ⑤情報・戦略分析指導者派遣
- ⑥栄養指導者派遣 等

※原則、サポートを受けられる指導者は本アカデミーを受講している者とする。

## 5 年間計画

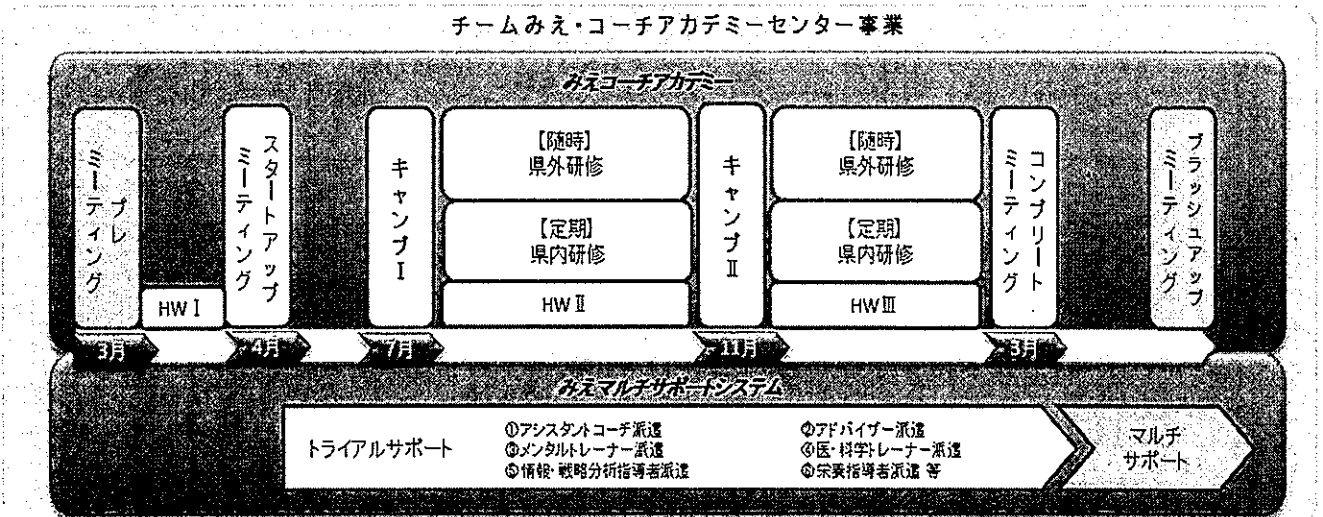
### (1) アカデミー事業【みえコーチアカデミー】

平成30年 4月(中旬) スタートアップミーティング  
 7月(月上旬) キャンプⅠ  
 随時 県外研修  
 定期 運動観察指導実践等(県内研修)  
 11月(下旬) キャンプⅡ

平成31年 3月 コンプリートミーティング  
 平成31年 4月以降 ブラッシュアップミーティング

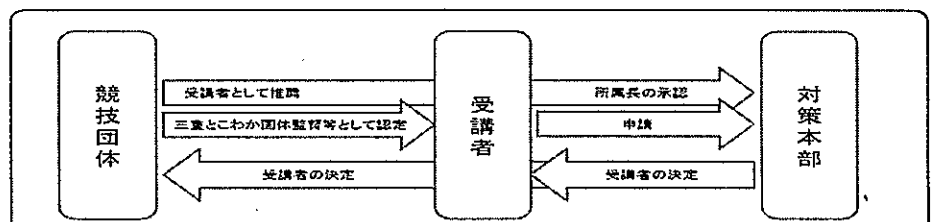
### (2) サポート事業【みえマルチサポートシステム】

平成30年 4月中旬 トライアルサポートスタート  
 平成31年 3月 継続の可否を審査・決定



項目	時期	内容	時間数	項目	時期	内容	時間数
プレミーティング	H30.3	概要・趣旨・事業説明	1JY	県外研修	随時	優秀指導者実践観察等	4JY
ホームワーク(HW)Ⅰ~Ⅲ	年3回	強化戦略プラン作成等	6JY	県内研修	定期	運動観察・実践指導・ディスカッション等	4JY
スタートアップミーティング	H30.4	開校式、講義、ディスカッション等	3JY	コンプリートミーティング	H31.3	プレゼンテーション、修了式	3JY
キャンプⅠ	H30.7	1泊2日、講義、ディスカッション等	8JY	ブラッシュアップミーティング	H31.4*	カンファレンス、ディスカッション等	
キャンプⅡ	H30.11	1泊2日、講義、ディスカッション等	8JY			合計	37JY

## 6 受講手続



## みえコーチアカデミー カリキュラム

### (1) カリキュラムポリシー

年間を通じて、トップコーチから多岐にわたる内容を、講義やディスカッションを通して学ぶ。

### (2) カリキュラム一覧

#### ① 集合研修カリキュラム一覧

日程	番号	科目名	項目	講師名	講義の概要(ねらい、目的)
4月 25日 (水)	①	コーチング論Ⅰ	スポーツの価値とコーチングの理念・哲学	交渉中	伝統的な指導(者)の強みと、今からの指導(者)に求められるものを理解し、指導力を高める。
	②	コミュニケーションⅠ	チームみえの形成	相馬浩隆	地元国体を成功させるために競技の枠を超えた指導者間の横の連携を促進し、チームみえとして一体感を醸成する。
	③	情報戦略Ⅰ	強化戦略プラン基礎	久木留毅	天皇杯・皇后杯獲得に向けた強化戦略プランについて考える。
7月 2日 (月) ～ 3日 (火)	④	コーチング論Ⅱ	アスリートセンタード	伊藤雅充	選手のニーズや資質を考慮し、選手が主体的に考え行動できるようにする。合わせて、指導者としての責務と使命を認識する。
	⑤	情報戦略Ⅱ	強化戦略プラン作成Ⅰ	交渉中	天皇杯・皇后杯獲得に向けた強化戦略のあり方を研修するとともにプランについて考える。
	⑥	情報戦略Ⅲ	強化戦略プラン作成Ⅱ	久木留毅	強化戦略プランについて、競技の枠を超えて指導者間で情報を共有し、強化戦略プランの実現性を高める。
	⑦	コーチングコミュニケーションⅠ	選手との関係性 傾聴と質問	松場俊夫	指導者に求められる基礎を土台としながら、深層的な自己理解を進めていき、自らの指導哲学を磨くとともに、選手との相互理解を深め一体感を醸成する。
	⑧	コーチングコミュニケーションⅡ	選手との関係性 観察と伝達と承認		
	⑨	医・科学サポートⅠ	医・科学サポートの活用	杉田正明	サポートの活用とその効果について理解を深める。また、サポートのあり方を考える。
	⑩	コミュニケーションⅡ	ディベートⅠ	株式会社 インソース	論理的思考、論理的コミュニケーション、プレゼンテーション、質問力、論理的構築力の考え方やスキルを習得する。
	⑪	コミュニケーションⅢ	ディベートⅡ		
11月 下旬	⑫	情報戦略Ⅳ	強化戦略プラン検証	計画中 杉田正明 久木留毅	福井国体の結果を踏まえ、課題を明確化する。
	⑬	情報戦略Ⅴ	ディスカッション		⑫で明確になった課題を解決するために、指導者間でディスカッションし、強化戦略プランを再構築する。
	⑭	医・科学サポートⅡ	メンタルサポート		メンタルサポートについての理解を深め、選手とのコミュニケーションスキルを向上させる。
※⑮～⑲については問診票から要望の高いものを必要数入れる。(0～5コマの範囲内)					
3月	⑳㉑	修了試験	プレゼンテーション	計画中 杉田正明 久木留毅	これまでの研修の成果と三重とこわか国体に向けた強化戦略及び三重のスポーツへの将来像についてプレゼンテーションする。
	㉒	コーチング論Ⅲ	リーダーシップ論		集団のリーダーから組織のリーダーとしてのスケールアップを行う。

#### ② 県外研修

受講生自らが企画し、優れた指導実践が行われている現場に赴き、運動観察・指導実践を視察するとともに、平素の指導に関して指導者とディスカッションを行い意識の向上を図る。

#### ③ 運動実践・指導観察(県内研修)

受講者や県内トップ指導者の指導現場において、運動観察・指導実践を視察するとともに、指導等に関する様々なテーマについてディスカッションを行い、指導力の向上を図る。

#### ④ ホームワーク(HW)

年間を通じて競技力の向上や強化戦略プランの構築、サポートの有益性等について協議、確認を行い指導力の向上を図る。

#### ⑤ 追加研修(希望者)

希望者は、カリキュラムとは別に講師から個別研修を受けることができる。ただし、旅費・宿泊費等の経費は自己負担とする。

## みえコーチアカデミー 講師プロフィール

### ○ 杉田 正明 氏

日本体育大学体育学部 教授 博士(学術)  
三重大学大学院修了、東京大学教養学部助手、三重大学教育学部助教授、同教授を経て、2017年4月から現職  
JOC科学サポート部門長  
JOCナショナルコーチアカデミー 医・科学サポート論 講師

競技スポーツ選手や幅広い年齢層のヒトを対象として、スポーツ科学的手法を用いて、競技力を高めるための効果的なトレーニング方法やコンディショニングに関する研究を行っている。(公財)日本オリンピック委員会や(公財)日本陸上競技連盟の科学スタッフの一員として、オリンピックや世界選手権代表選手の強化支援に関わる医・科学サポート活動を行っている。

### ○ 久木留 毅 氏

日本スポーツ振興センターハイパフォーマンス戦略部部長(2016より兼務)  
国立スポーツ科学センター副センター長(2016より兼務)  
JOCナショナルコーチアカデミー 情報戦略 講師

「戦略プラン作成」をテーマに、2020年東京オリンピックもしくは冬季等に向けて、各競技団体及び受講者自身がやるべき内容とその方法についてディスカッションを行う。他にも、文部科学省「トップアスリートにおける強化・研究活動拠点の在り方についての調査研究に関する有識者会議」委員等も歴任。

### ○ 相馬 浩隆 氏

公益財団法人日本オリンピック委員会JOCキャリアアカデミー事業  
アシスタントディレクター  
公益財団法人日本オリンピック委員会JOCキャリアアカデミーアシスタントディレクター。キャリアカウンセラー。ワークショップデザイナー。

明治大学卒業後、モーターサイクルスポーツの中央競技団体に勤務。退職後、筑波大学大学院専任研究員を経て現職。研修講師、大学院/大学非常勤講師を兼務。スポーツ選手とそのキャリア(生き方)に係る課題解決が、この10年の最大関心事。近年は主に教育プログラムの開発に取り組んでいる。

### ○ 伊藤 雅充 氏

日本体育大学 児童スポーツ教育学部 准教授  
国際コーチングエクセレンス評議会科学委員会委員  
アジアコーチング科学協会副会長

「アスリート・センタード・コーチング」は、アスリートを常に中心に置いたコーチングを理想とし、コーチとアスリートがお互いに理解し信頼しあってよく話し合い、同じ方向を向いてさらなる向上を目指す。

### ○ 松場 俊夫 氏

NPO法人コーチ道代表理事  
JOCナショナルコーチアカデミー コーチング・コミュニケーション 講師

関西学院大学商学部卒業後、株式会社リクルート入社。退職後、アメリカンフットボールのプロコーチとして独立。現在、オービックシーガルズ(アメリカンフットボール)のアシスタントGM、企業研修の講師。アメリカンフットボールでは日本選手権(ライスボウル)で3度優勝。第3回ワールドカップ(2007年)の日本代表コーチにも選出。「人はなかなか変わらないけれど、変わるときは一瞬である」。その瞬間に立ち会うことが何よりの楽しみで、「人の成長」に関わることがライフワーク。

## 競技用具等整備事業 実施方針

平成30年度当初予算【29,188千円】

### 1 目的

三重とわか国体に向けて競技力向上を図るとともに、大会終了後の全国大会等において安定した競技力を確保するため、強化活動に必要な競技用具等を整備することを目的とする。

### 2 整備対象競技

本事業により、競技用具等を整備する競技は、国民体育大会における正式競技とする。

### 3 整備対象競技用具等

- (1) 高額等の理由により、個人や競技団体に整備することが困難なもの。
- (2) 競技用具等が整備されておらず、新たに整備する必要があるもの。
- (3) 既存の競技用具等が、規格外、老朽化、性能不足等の理由により、改めて整備する必要があるもの。
- (4) 競技力向上のために数が不足しているもの。
- (5) その他、競技力向上に必要と認められるもの。

### 4 実施内容

- (1) 前出要件を満たす競技用具等の整備に係る要望を競技団体から募集する。
- (2) 競技団体からの要望について、競技特性、用具の特殊性、見積価格、ヒアリングの内容、現地調査を総合的に精査し、適当と認めた競技用具等を県が購入する。
- (3) 競技団体に対して県が購入した競技用具等を貸し付ける。
- (4) 貸し付けした競技用具等について、競技団体は責任を持って管理するとともに、引渡し、維持、修繕及び返納に要する費用を負担する。

### 5 年間計画

- |    |                       |
|----|-----------------------|
| 4月 | 要望申請の提出               |
| 5月 | 選定委員会の設置、整備対象競技用具等の決定 |
| 6月 | 整備対象競技用具等の購入、貸付申請書の提出 |
| 随時 | 整備した競技用具等の実地調査        |

## みえのアスリート応援・発信事業 実施方針

平成30年度当初予算【2,822千円】

### 1 目的

本県代表として活躍するアスリートを幅広く情報発信することで、スポーツを「みる」「支える」人との一体感を醸成することを目的とする。

### 2 実施内容

#### (1) 広報紙の作成

県内で活躍しているアスリートを幅広く情報発信できるよう、広報紙の作成を行う。年2回程度発行を行う。

〔配布先〕

- ・県内の小・中・高等学校の児童生徒
- ・県内のスポーツ関連施設
- ・イベント等

#### (2) チームみえ啓発物の作成

県代表選手の活躍を啓発できるよう、チームみえのロゴ等を使用した啓発物の作成を行う。

- ・県代表選手及びスタッフポロシャツ
- ・応援用グッズ等

### 3 年間計画

- |      |                    |
|------|--------------------|
| 6月   | 「輝くみえのアスリートNEWS」発行 |
| 8～9月 | チームみえ啓発グッズ等作成      |
| 11月  | 「輝くみえのアスリートNEWS」発行 |

## 三重県競技力向上対策本部規約の変更

(変更前)	第5章 第13条 本部の事務を処理するため、三重県地域連携部 <u>スポーツ推進局内に事務局を置く。</u>
(変更後)	第5章 第13条 本部の事務を処理するため、三重県地域連携部 <u>国体・全国障害者スポーツ大会局内に事務局を置く。</u>

## 三重県競技力向上対策本部事務局規程の変更

(変更前)	第2章 第2条 事務局は、三重県地域連携部 <u>スポーツ推進局</u> 内に置く。
(変更後)	第2章 第2条 事務局は、三重県地域連携部 <u>国体・全国障害者スポーツ大会局</u> 内に置く。

(変更前)	第2章 第4条2 事務局長は、三重県地域連携部 <u>スポーツ推進局</u> 次長をもって充てる。
(変更後)	第2章 第4条2 事務局長は、三重県地域連携部 <u>国体・全国障害者スポーツ大会局</u> 次長（ <u>スポーツ推進・競技力向上対策担当</u> ）をもって充てる。

(変更前)	第2章 第4条3 事務局次長は、三重県地域連携部 <u>スポーツ推進局</u> 競技力向上対策課長をもって充てる。
(変更後)	第2章 第4条3 事務局次長は、三重県地域連携部 <u>国体・全国障害者スポーツ大会局</u> 競技力向上対策課長をもって充てる。

(変更前)	<p>第2章 第4条4  出納員は、三重県地域連携部<u>スポーツ推進局</u>競技力向上対策課課長補佐兼班長をもって充てる。</p>
(変更後)	<p>第2章 第4条4  出納員は、三重県地域連携部<u>国体・全国障害者スポーツ大会局</u>競技力向上対策課課長補佐兼班長をもって充てる。</p>

(変更前)	<p>第2章 第4条5  事務局員は、三重県地域連携部<u>スポーツ推進局</u>競技力向上対策課の職員をもって充てる。</p>
(変更後)	<p>第2章 第4条5  事務局員は、三重県地域連携部<u>国体・全国障害者スポーツ大会局</u>競技力向上対策課の職員をもって充てる。</p>



## 三重県競技力向上対策本部財務会計規程の変更

(変更前)	<p>第1章 第2条</p> <p>事務局長は、出納員（事務局規程第4条第4項の規定により三重県地域連携部<u>スポーツ推進局競技力向上対策課長課長補佐兼班長</u>を充てる。）に事故があるとき、又は欠けたとき、若しくは移動に伴い後任者が赴任するまでの間は、当該期間中、出納員の職務を執行する者を任命しなければならない。</p>
(変更後)	<p>第1章 第2条</p> <p>事務局長は、出納員（事務局規程第4条第4項の規定により三重県地域連携部<u>国体・全国障害者スポーツ大会局競技力向上対策課長課長補佐兼班長</u>を充てる。）に事故があるとき、又は欠けたとき、若しくは移動に伴い後任者が赴任するまでの間は、当該期間中、出納員の職務を執行する者を任命しなければならない。</p>



# 審 議 事 項



## 三重県競技力向上対策基本方針における目標の修正（案）

三重県競技力向上対策基本方針策定（平成25年5月）後に東京オリンピック競技大会の開催が決定（平成25年9月）し、オリンピック競技大会での実施種目が国民体育大会の新種目として岩手国体以降、順次導入されています。

愛媛国体では、開催県である愛媛県が天皇杯・皇后杯の獲得を目指して取組を進めたものの、東京都が天皇杯・皇后杯を獲得しました。

新種目の導入や東京オリンピック競技大会への出場を目指して東京都で競技活動の継続を希望する選手が増えたことから、「三重とこわか国体」における東京都のポテンシャルを分析したところ、以下のとおり、目標得点の見直しが必要となりました。

## 【見直しのポイント】

- ・「三重とこわか国体」での本県の天皇杯得点の予想は、三重県競技力向上対策基本方針の目標得点である2,500点に新種目での獲得を目指す100点を加えたおよそ2,600点です。
- ・東京都における直近2大会の天皇杯得点の平均は2,534点、皇后杯得点の平均は1,303点です。
- ・東京都は、今後導入される新種目により、天皇杯得点で2,600点以上、皇后杯得点で1,350点の得点を獲得するポテンシャルを有しています。

これらのことから、「三重とこわか国体」における本県の目標得点は、以下のとおりとします。

## 三重県競技力向上対策基本方針における新たな目標得点

	修正前	修正後
天皇杯得点	2,500点	2,700点以上
皇后杯得点	設定なし	1,400点以上

## 平成29年度事業報告書（案）

## 1. 会議の開催と審議、協議の内容について

開催年月日	会議名	主な審議、協議内容
平成29年 4月18日	第5回本部会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役員及び委員等の変更（報告）</li> <li>・三重県競技力向上対策本部会議等の開催経過（報告）</li> <li>・第7回、第8回競技力向上対策委員会の概要（報告）</li> <li>・第71回国民体育大会 総合成績（報告）</li> <li>・三重県競技力向上対策本部 各専門委員会の概要（報告）</li> <li>・三重県競技力向上対策委員会における審議決定事項（報告）</li> <li>・平成28年度事業報告、収支決算</li> <li>・平成29年度事業計画、収支予算</li> </ul>
10月30日	第5回企業等連絡調整 専門委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員の変更（報告）</li> <li>・三重県競技力向上対策本部第8回競技力向上対策委員会の概要（報告）</li> <li>・第72回国民体育大会（えひめ国体）の結果（報告）</li> <li>・平成29年度の競技力向上対策事業（成年選手）の進捗状況（報告）</li> <li>・第72回国民体育大会に係る成年選手の結果分析及び今後の取組（協議）</li> </ul>
10月31日	第5回ジュニア・少年選手強化専門委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員の変更（報告）</li> <li>・三重県競技力向上対策本部第8回競技力向上対策委員会の概要（報告）</li> <li>・第72回国民体育大会（えひめ国体）の結果（報告）</li> <li>・平成29年度の競技力向上対策事業（ジュニア・少年選手）の進捗状況（報告）</li> <li>・第72回国民体育大会結果及び平成29年度競技力向上対策事業を踏まえた今後の取組（協議）</li> </ul>

10月31日	第5回成年選手強化専門委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員の変更（報告）</li> <li>・三重県競技力向上対策本部第8回競技力向上対策委員会の概要（報告）</li> <li>・第72回国民体育大会（えひめ国体）の結果（報告）</li> <li>・平成29年度の競技力向上対策事業（成年選手）の進捗状況（報告）</li> <li>・第72回国民体育大会に係る成年選手の結果分析及び今後の取組（協議）</li> </ul>
11月20日	第9回競技力向上対策委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員の変更（報告）</li> <li>・三重県競技力向上対策本部会議等に係る開催経過（報告）</li> <li>・平成29年度競技力向上対策事業の進捗状況（報告）</li> <li>・競技力区分による得点見込と獲得得点及び対策関連事業執行等（報告）</li> <li>・第72回国民体育大会に係る総合成績（報告）</li> <li>・第72回国民体育大会三重県選手団に係る入賞一覧（報告）</li> <li>・育成期3年目における競技力向上の取組について（協議）</li> </ul>
平成30年 3月14日	第10回競技力向上対策委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三重県競技力向上対策本部等に係る開催経過（報告）</li> <li>・三重県競技力向上対策本部第9回競技力向上対策委員会に係る概要（報告）</li> <li>・平成29年度競技力向上対策事業に係る実施報告及び成果（報告）</li> <li>・育成期3年目における競技力向上の取組について（協議）</li> <li>・平成30年度競技力向上対策事業（案）について（審議）</li> </ul>

## 2. 選手の育成・強化について

実施時期	競技力向上の取組	具体的取組
平成29年4月 ～ 平成30年3月	チームみえジュニア指定、 指導者・保護者研修プログラム事業	将来活躍が期待できるジュニアアスリート709名を「チームみえジュニア」として指定し、選手や指導者・保護者への研修会を実施 ・チームみえジュニア指定証交付式 平成29年6月25日（日） ・鈴鹿医療科学大学白子キャンパス
平成29年6月 ～ 平成30年3月	トップジュニア育成事業	世界大会等で活躍するジュニア選手16名を「チームみえスーパージュニア」として指定し、強化活動を支援
平成29年4月 ～ 平成30年3月	チームみえ国体選手強化事業	えひめ国体において男女総合成績10位台獲得と総合得点1,100点をめざし、入賞が期待できる競技団体の強化活動を支援
平成29年4月 ～ 平成30年3月	トップ選手育成支援事業	競技団体が行う年間を通じた選手の強化活動や競技の普及活動等を支援
平成29年6月 ～ 平成30年3月	女性アスリートタレント発掘事業	優れた資質のあるジュニア選手を発掘し、教育プログラムや専門プログラムを実施し、世界大会で活躍する選手を育成
平成29年4月 ～ 平成30年3月	大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業	<p>[ A 強化指定チーム ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・AGF陸上競技部</li> <li>・NTN陸上競技部</li> <li>・相好体操クラブ</li> <li>・名張乗馬クラブ</li> <li>・北勢ライディングファーム（馬術）</li> <li>・PEARLS（ラグビーフットボール）</li> </ul> <p>[ B 強化指定チーム ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デンソー女子陸上長距離部</li> <li>・三重バイオレットアイリス（ハンドボール）</li> <li>・エクセディ卓球部</li> <li>・株式会社安永弓道部</li> </ul> <p>[ C 強化指定チーム ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヴィアティン三重（バレーボール）</li> <li>・三重県警察（ライフル射撃）</li> <li>・三重県警察（剣道）</li> <li>・名鉄乗馬クラブクレイン東海（馬術）</li> <li>・三重県警察（柔道）</li> <li>・皇學館大学柔道部</li> </ul>



平成29年4月 ～ 平成30年3月	東京オリンピック競技大会等選手強化指定事業	世界大会で活躍が期待できる成年選手5名を強化指定し、強化活動を支援
-------------------------	-----------------------	-----------------------------------

### 3. 指導者の養成について

実施時期	競技力向上の取組	具体的取組
平成29年7月 ～ 平成30年3月	強化指定運動部、チーム指導者研修事業	指導者の資質向上に向け、強化指定した運動部・チーム指導者への研修会を実施 第1回 平成29年7月4日(火) ・三重県総合文化センター レセプションルーム 指導者の県外研修実施
平成29年5月 ～ 平成30年3月	特別コーチ派遣事業	競技力向上に向け、優れた指導者やオリンピック選手を年間コーチ、ワンポイントコーチとして競技団体の強化活動に派遣。 〔年間コーチ〕バレーボール、剣道、ホッケー 3団体 〔ワンポイントコーチ〕陸上競技、テニス、ソフトボール、バドミントン、空手道、なぎなた、トライアスロン 7団体

### 4. 広報・顕彰について

実施時期	競技力向上の取組	具体的取組
平成29年4月 ～ 平成30年3月	みえのアスリート応援・発信事業	・広報紙「輝くみえのアスリートNEWS」の配布(各種会議、中学校、イベント配布) 「三重から発信!未来のトップアスリート応援募金」チラシの配布(各種企業・団体、各種会議、イベント配布)

## 平成29年度収支決算書(案)

## 1 収入

(単位:円)

科目	当初予算額	補正予算額	補正後予算額	決算額	補正予算額との増減	説明
負担金	136,166,000	△1,300,000	134,866,000	133,569,078	△1,296,922	三重県負担金
収入合計	136,166,000	△1,300,000	134,866,000	133,569,078	△1,296,922	

## 2 支出

(単位:円)

科目	当初予算額	補正予算額	補正後予算額	決算額	補正予算額との増減	説明
事業費	1,963,000	0	1,963,000	1,949,176	△13,824	本部会議、委員会、専門委員会開催経費
	1,496,000	0	1,496,000	1,486,948	△9,052	チームみえジュニア指定、指導者・保護者研修プログラム
	3,000,000	200,000	3,200,000	3,016,170	△183,830	トップジュニア育成
	83,767,000	0	83,767,000	83,730,681	△36,319	チームみえ国体選手強化
	18,433,000	0	18,433,000	18,416,729	△16,271	トップ選手育成支援
	8,000,000	△1,500,000	6,500,000	6,038,593	△461,407	女性アスリートタレント発掘・育成
	9,999,000	0	9,999,000	9,936,184	△62,816	大学運動部、企業・クラブチーム強化指定
	1,800,000	0	1,800,000	1,663,462	△136,538	東京オリンピック競技大会等選手強化指定
	1,195,000	0	1,195,000	1,189,055	△5,945	強化指定運動部、チーム指導者研修
	2,978,000	0	2,978,000	2,757,320	△220,680	特別コーチ派遣
	3,521,000	0	3,521,000	3,374,760	△146,240	みえのアスリート応援・発信
事務局費	14,000	0	14,000	10,000	△4,000	事務局費
支出合計	136,166,000	△1,300,000	134,866,000	133,569,078	△1,296,922	


# 監 査 報 告

平成29年度における収支決算に関する証拠書類と諸帳簿について監査したところ、その内容が適正であったことを認めます。

平成30年 4 月 11 日

監 事

三重県出納局副局長

中 嶋 中 

平成30年 4 月 11 日

監 事

三重県体育協会 

立 藤 三千洋

三重県競技力向上対策本部

本部長 鈴木 英敬 様

平成30年度事業計画書（案）

1 会議の開催について

- (1) 本部会議
- (2) 競技力向上対策委員会
- (3) 専門委員会
  - ① ジュニア・少年選手強化専門委員会
  - ② 成年選手強化専門委員会
  - ③ 企業等連絡調整専門委員会

2 選手の育成・強化事業について

- (1) ジュニア・少年選手
  - ① チームみえジュニア指定、指導者・保護者研修プログラム事業
  - ② トップジュニア育成事業
  - ③ 女性アスリートタレント発掘・育成事業
- (2) 少年選手・成年選手共通
  - ① チームみえ国体選手強化事業
  - ② トップ選手育成支援事業
- (3) 成年選手
  - ① 大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業
  - ② 東京オリンピック競技大会等選手強化指定事業

3 指導者の養成事業について

- (1) チームみえ・コーチアカデミーセンター事業【新規】

4 広報啓発について

- (1) みえのアスリート応援・発信事業

平成30年度競技力向上対策事業

	事業名	対策本部事業	対象
①	チームみえジュニア育成事業		ジュニア・少年選手
②	チームみえジュニア指定、指導者・保護者研修プログラム事業	○	
③	ジュニアクラブ強化指定事業		
④	中学校運動部強化指定事業		
⑤	高等学校運動部強化指定事業		
⑥	トップジュニア育成事業	○	
⑦	女性アスリートタレント発掘・育成事業	○	
⑧	チームみえ国体選手強化事業	○	少年・成年選手共通
⑨	トップ選手育成支援事業	○	
⑩	女性アスリートサポート事業		
⑪	大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業	○	成年選手
⑫	東京オリンピック競技大会等選手強化指定事業	○	
⑬	トップアスリート就職支援事業		
⑭	スポーツ指導員配置事業		指導者
⑮	チームみえ・コーチアカデミーセンター事業【新規】	○	
⑯	競技用具等整備事業		環境整備
⑰	みえのアスリート応援・発信事業	○	広報啓発

## 平成30年度収支予算書(案)

## 1 収入

(単位:千円)

科 目	本年度当初予算額	前年度当初予算額	比較増減額	説 明
負 担 金	172,908	136,166	36,742	三重県負担金
計	172,908	136,166	36,742	

## 2 支出

(単位:千円)

科 目	本年度当初予算額	前年度当初予算額	比較増減額	説 明
事 業 費	2,738	1,963	775	本部会議、委員会、専門委員会開催経費
	1,500	1,496	4	チームみえジュニア指定、指導者・保護者研修プログラム
	3,000	3,000	0	トップジュニア育成
	9,602	8,000	1,602	女性アスリートタレント発掘・育成
	86,806	83,767	3,039	チームみえ国体選手強化
	20,425	18,433	1,992	トップ選手育成支援
	9,000	9,999	△999	大学運動部、企業・クラブチーム強化指定
	2,000	1,800	200	東京オリンピック競技大会等選手強化指定
	0	1,195	△1,195	強化指定運動部、チーム指導者研修
	0	2,978	△2,978	特別コーチ派遣
	35,000	0	35,000	チームみえ・コーチアカデミーセンター
	2,822	3,521	△699	みえのアスリート応援・発信
事務局費	15	14	1	事務費
計	172,908	136,166	36,742	







そ の 他  
(情報共有事項)



三重とこわか国体・三重とこわか大会の開催準備について

三重県地域連携部  
国体・全国障害者スポーツ大会局

三重とこわか国体・三重とこわか大会については、本年7月、正式に開催決定を受けるため、市町や競技団体等と連携・協力し、会場の選定等に取り組むなど着実に準備を進めています。

三重とこわか国体では、オリンピック追加競技を含む正式競技やデモンストレーションスポーツ等の会場地市町の選定に取り組んだ結果、県内全ての市町で一つ以上の競技が開催されることとなりました。

三重とこわか大会については、会場地市町の選定、競技役員や手話通訳等の情報支援ボランティアの養成等を進めています。

また、両大会の開催機運を醸成するため、イメージソングやダンスを制作するとともに、広報ボランティアと効果的な広報を行っています。

両大会の成功に向けて、引き続き、市町や競技団体等と緊密に連携し、「オール三重」で着実に準備を進めていきます。

1 三重とこわか国体の開催準備状況

(1) 会場地市町の選定

正式競技、特別競技、公開競技については、県内 20 市町で、デモンストレーションスポーツについては、20 市町 32 競技を選定しました。

これにより、県内全ての市町で競技が開催されることとなります。

- ① 正式競技 (37 競技)
- ② 特別競技 (1 競技)
- ③ 公開競技 (5 競技)
- ④ デモンストレーションスポーツ (32 競技)

(2) 会期の決定

国体開催基準要項において、9月中旬から10月中旬までの11日間以内で開催することとされています。本県では、次の会期案を(公財)日本スポーツ協会\*に提出しており、本年7月に正式決定される予定です。

\* (公財)日本体育協会は、平成30年4月に(公財)日本スポーツ協会に名称変更

[三重県案]

第1案 平成33年 9月25日(土)～10月5日(火)

第2案 平成33年 9月26日(日)～10月6日(水)

第3案 平成33年 10月2日(土)～10月12日(火)

(希望順位は第1案～第3案の順)

## 2 三重とこわか大会の開催準備状況

会場地選定及び会期案について、本年2月14日に開催しました第21回全国障害者スポーツ大会三重県準備委員会第3回委員会において、以下のとおり決定されました。

### (1) 会場地市町の選定

	競技名	会 場 地		
		市町	競技会場名	
個人競技 (7)	陸上競技	伊勢市	三重交通G スポーツの杜 伊勢 陸上競技場	
	水泳	鈴鹿市	三重交通G スポーツの杜 鈴鹿 水泳場	
	アーチェリー	松阪市	松阪市総合運動公園 芝生広場	
	卓球 (サウンドテーブルテニスを含む)	伊勢市	三重県営サンアリーナ	
	フライングディスク	(東員町と調整中)		
	ボウリング	津市	津グランドボウル	
	ポッチャ	伊勢市	三重県営サンアリーナ	
団体競技 (7)	バスケットボール	津市	津市産業・スポーツセンター (サオリーナ)	
	車椅子バスケットボール	津市	津市産業・スポーツセンター (サオリーナ)	
	ソフトボール	紀北町	赤羽運動公園野球場、赤羽運動公園多目的広場	
	グランドソフトボール	明和町	明和町総合グラウンド	
	バレーボール	身体	(四日市市と調整中)	
		知的		
		精神	津市	津市安濃中央総合公園内体育館
	サッカー	鈴鹿市	三重交通G スポーツの杜 鈴鹿 サッカー・ラクビー場	
フットベースボール	志摩市	長沢野球場、長沢多目的広場		

### (2) 会期の決定

次の会期案を、文部科学省及び(公財)日本障がい者スポーツ協会に提出します。

[三重県案]

第1案 平成33年10月23日(土)～10月25日(月)

第2案 平成33年10月30日(土)～11月1日(月)

(希望順位は第1案～第2案の順)

## 平成30年度全国高等学校総合体育大会の準備状況について

### 1 全国高等学校総合体育大会

全国高等学校体育連盟（昭和23年発足）が、全国各地で個別に開催されていた競技種目別選手権大会を、昭和38年度の新潟大会から統合して誕生した大会であり、現在では、規模及び内容において高校生最大のスポーツの祭典に発展し、夏季大会及び冬季大会が開催されています。

平成22年度の沖縄県までは、県単独開催されてきましたが、平成23年度より、全国を9つの地域に分け、ブロック開催として行われています。

#### (1) 開催状況

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
ブロック	北部九州	南関東	近畿	中国	南東北	東海	南部九州
主会場県	大分県	東京都	和歌山県	岡山県	山形県	三重県	鹿児島県

### 2 平成30年度全国高等学校総合体育大会概要

#### (1) 大会期間【競技日程は別紙1参照】

平成30年7月26日（木）～8月20日（月）

#### (2) 総合開会式【内容は別紙2参照】

期日：平成30年8月1日（水） 会場：三重県営サンアリーナ

#### (3) 開催競技（東海ブロックでは29競技32種目）

三重県 (15種目) ※総合開会式	陸上競技、水泳（水球）、バレーボール男子、バレーボール女子、ソフトテニス、ハンドボール、サッカー男子、ソフトボール、柔道、剣道、レスリング、テニス、登山、ウエイトリフティング、なぎなた
岐阜県(5種目)	ボクシング、ホッケー、空手道、アーチェリー、カヌー
静岡県 (6種目)	体操（体操競技・新体操）、サッカー女子、バドミントン、相撲、弓道、自転車競技（ロード・トラック）
愛知県 (6種目)	水泳（競泳・飛込）、バスケットボール、卓球、ボート、フェンシング、少林寺拳法

\*ヨット競技のみH27からH36まで和歌山県にて固定開催

#### (4) 参加者見込数（大会補助員含む）

	東海4県	うち三重県
選手・監督（実人数）	約 36,000人	約 18,400人
大会役員（実人数）	約 9,200人	約 4,000人
大会補助員（実人数）	約 13,400人	約 6,600人
観客（延べ人数）	約607,200人	約341,800人

※平成24年度から28年度開催の平均人数より算出

### 3 取組状況

平成 30 年度全国高等学校総合体育大会（以下「大会」という。）の開催に向けて、競技種目別大会を実施する 8 市町に会場地市町実行委員会が設置され、三重県実行委員会とともに、大会の準備を進めています。

#### (1) 広報関係

平成 29 年 4 月に大会公式ホームページを開設し、会場地市町の観光や特産品の情報を発信するための「観光・おもてなし」ページを公開するとともに、県および各市町の観光サイトへ誘導するようにサイトを構築しました。

大会ポスター、総体ニュースなどの県内コンビニ、協力企業などでの掲示に加え、大会 150 日前をとらえ、県内主要駅への看板設置、県庁舎への懸垂幕の設置や県公用車、県内郵便集配車への啓発ステッカーの掲出など大会に向けた機運醸成を進めました。

4 月 7 日から大会 100 日前の 4 月 17 日までを広報強化週間とし、各地のイベントでのブース出店、各種メディア出演を実施するとともに、大会ハンドブック、報道ハンドブックの作成など準備を進めます。

また、大会期間中には、記録センター・プレスセンターの設置、主要駅での歓迎装飾および総合案内所の設置などを行います。

#### (2) 競技関係

昨年度は、会場地 8 市町に対し、競技担当教員（16 名、週 3 日）を配置し、競技会場・練習会場の確定、役員・補助員の養成（延べ 1,529 人）、大会運営経費の試算等を行いました。

4 月から競技担当教員（17 名、週 5 日）に増員し、競技大会の運営主体である会場地市町とともに、競技会場の設営準備や役員（実人員：2,101 人）・補助員（実人員：6,798 人）の編成などの運営体制の構築を行い、選手にとって最高の舞台をつくります。

#### (3) 総合開会式関係

総合開会式における歓迎演技の内容検討を進め、10 月から各パート練習を始めたところです。また、総合開会式や各競技種目別大会会場を彩る草花装飾の試験栽培等を実施しました。

4 月からは、歓迎演技の合同練習会、輸送・警備を含めた運営体制の構築、招待者の選定、一般観覧者の募集などを進めていきます。

## ●総合開会式概要

日時：平成30年8月1日（水）10:00～12:06

会場：県営サンアリーナ（伊勢市）

参加者：選手、監督、役員、招待者、観覧者など

内容：総合開会式は、大きく式典と歓迎演技で構成されており、式典では、高校生による司会のもと、選手団入場行進、挨拶、祝辞、選手代表宣誓などを行います。歓迎演技では、三重県の高校生が、太鼓、体操、新体操、ダンスパフォーマンス、マーチングなどの演技を行い、参加者をもてなします。その後、高校生活動推進委員が中心となり選手団激励を行ったあと選手団が退場します。

## （４）高校生活動関係

高校生活動では、高体連加盟の県立・私立68校に設置の学校推進委員会を中心に地元高校生が大会の成功に向けて、多様な活動を実施しています。

各学校では、文化祭やオープンスクール、地域のイベントなどでのPR活動を90回実施しました。

また、10月から11月にかけて、県内3か所にて高校生の企画・運営による300日前イベントを実施するとともに、カウントダウンボードを県庁や名古屋駅、県内主要4駅に設置しました。

このほか、来県する選手・監督への手作り記念品「伊賀くみひものミサンガ」を県内68校にて製作中です。

総合開会式では、招待者等をお迎えする受付業務や会場案内、選手団の誘導などを行うとともに、会場を彩る草花装飾の準備や管理作業など多くの高校生が運営に携わります。また、皇族に高校生活動の状況等を発表する御交流会を行います。

また、競技種目別大会では、線審や記録員などの競技補助員や受付、放送、式典補助などの運営補助員として、多くの高校生の活動により、大会に参加する選手をお迎えするとともに、会場での物販やおもてなし活動を実施する予定です。

平成30年度全国高等学校総合体育大会競技会場・競技日程

県名	競技種目	会場地 市町名	競技会場	7月							8月																		
				26 木	27 金	28 土	29 日	30 月	31 火	1 水	2 木	3 金	4 土	5 日	6 月	7 火	8 水	9 木	10 金	11 土	12 日	13 月	14 火	15 水	16 木	17 金	18 土	19 日	20 月
三重県	総合開会式	伊勢市	三重県営サンアリーナ																										
	陸上競技	伊勢市	三重交通G スポーツの杜 伊勢 陸上競技場																										
	水泳(水球)	鈴鹿市	三重交通G スポーツの杜 鈴鹿 水泳場																										
	男子	バレーボール	伊勢市	三重県営サンアリーナ	○		●	●																					
			津市	三重県総合文化センター サオリーナ								●	●	◆															
	ソフトテニス	鈴鹿市	津市立芸濃中学校 三重交通G スポーツの杜 鈴鹿 庭球場					○				◆																	
	ハンドボール		津市	サオリーナ			●	●	●	●	◆																		
			鈴鹿市	安濃中央総合公園内体育館 三重県立津高等学校	●	●	●	●	●	●	●																		
			鈴鹿市	三重交通G スポーツの杜 鈴鹿 体育館																									
	サッカー	男子	鈴鹿市	三重交通G スポーツの杜 鈴鹿 メイングラウンド																									
四日市市			三重交通G スポーツの杜 鈴鹿 第2グラウンド 三重交通G スポーツの杜 鈴鹿 第4グラウンド 四日市市中央緑地陸上競技場 四日市市中央緑地フットボール場(A・Bフィールド)																										
ソフトボール	男子	伊勢市	伊勢フットボールヴィレッジ(A・Dピッチ)																										
		伊賀市	伊勢フットボールヴィレッジ(Bピッチ)																										
		熊野市	上野運動公園競技場																										
		熊野市	山崎運動公園																										
柔道	剣道	津市	熊野市総合グラウンド																										
		伊勢市	熊野市防災公園野球場																										
レスリング	男子	津市	サオリーナ																										
		津市	三重県営サンアリーナ																										
テニス	男子	四日市市	メッセウイング・みえ																										
		四日市市	四日市ドーム 霞ヶ浦テニスコート 三滝テニスコート																										
登山	男子	菟野町	菟野町民センター																										
		菟野町	三重県立菟野高等学校(審査) 三重県民の森(募营地)																										
ウエイトリフティング	男子	亀山市	鈴鹿山脈一帯(三池岳、釈迦ヶ岳、国見岳、御在所山、鎌ヶ岳)																										
		津市	亀山市文化会館 西野公園体育館 津市久居体育館																										



平成30年度全国高等学校総合体育大会競技会場・競技日程

県名	競技種目	会場地 市町名	競技会場	7月							8月																		
				26 木	27 金	28 土	29 日	30 月	31 火	1 水	2 木	3 金	4 土	5 日	6 月	7 火	8 水	9 木	10 金	11 土	12 日	13 月	14 火	15 水	16 木	17 金	18 土	19 日	20 月
岐阜県	ボクシング	岐阜市	OKBぎふ清流アリーナ																										
	ホッケー	各務原市	各務原市民会館																										
	空手道	岐阜市	川崎重工ホッケースタジアム																										
	アーチェリー	高山市	岐阜メモリアルセンター であドーム																										
	カヌー	海津市	飛騨高山ビッグアリーナ 中山公園陸上競技場 海津市文化センター 長良川国際レガッタコース																										
静岡県	体操 新体操	静岡県	静岡県草薙総合運動場体育館(このはなアリーナ)																										
		藤枝市	藤枝市民会館																										
	サッカー	女子	藤枝市	藤枝総合運動公園サッカー場 藤枝総合運動公園陸上競技場 藤枝総合運動公園多目的広場人工芝広場 藤枝市民グラウンドサッカー場																									
		バドミントン	浜松市	浜松アリーナ																									
	相撲	男子	沼津市	浜松市浜北総合体育館(グリーンアリーナ)																									
		弓道	袋井市	ふじのくに千本松フォラム(ブラサザヴェルデ)																									
	自転車競技	トラック	伊豆市	小笠山総合運動公園エコパアリーナ																									
		ロード	伊豆市	日本サイクルスポーツセンター365メートルトラック、 日本競輪学校 日本サイクルスポーツセンター5キロサーキットコース																									
	水泳	競泳	名古屋	日本ガイシアリーナ																									
		飛込	一宮市	一宮市総合体育館(DIADORAアリーナ、いちい値金アリーナ)																									
バスケットボール	男子	名古屋市	ドルフィンズアリーナ(愛知県体育館)																										
	女子	小牧市	パークアリーナ小牧(小牧市スポーツ公園総合体育館)																										
卓球	卓球	豊田市	スカイホール豊田																										
ボート	ボート	東郷町	東郷町総合体育館 愛知池漕艇場 東郷コース																										
フェンシング	フェンシング	知多市	知多市勤労文化会館																										
少林寺拳法	少林寺拳法	西尾市	知多市民体育館																										
ヨット	ヨット	和歌山市	西尾市総合体育館 和歌山セーリングセンター																										
◎:総合開会式																													
●:競技																													
◆:競技終了後閉会式																													
■:競技種目別開会式後競技																													
□:閉会式																													

平成30年度全国高等学校総合体育大会 総合開会式開催概要(案)

開催日：平成30年 8月 1日(水)  
 会場：県営サンアリーナ (伊勢市朝熊町)  
 8:00 入場開始  
 9:30 入場締切/式典前映像  
 10:00 [式典] 開始  
 11:13 [歓迎演技] 開始  
 11:42 [選手団激励]  
 11:57 選手団退場  
 12:06 総合開会式終了

〔主な出席者〕

- ①大会役員、招待者、一般観覧者 (1,800名程度)  
 (文部科学大臣、全国高体連会長、日本体育協会会長等、  
 会場市町長、都道府県教育長、競技団体役員、協賛各社)
- ②各都道府県選手団 (1,200名程度)  
 (陸上競技、バレーボール女子、ウエイトリフティング)

①式典運営：

- アナウンス(8名程度)：県内高校生
- 先導隊・プラカード(80名程度)：四日市商業、四日市、暁、高田、三重、他
- 吹奏楽(120名程度)：白子、皇學館
- 合唱(100名程度)：宇治山田、伊勢、明野、松阪工業、松阪、津、津西、他
- 津東、三重、セントヨゼフ女子学園、桜丘、高田、他
- ②歓迎演技(370名程度)：県内高校生
- ③会場運営(400名程度)：県内高校生

(県内高校生による式典企画運営)

〔式典〕約1時間

1	皇族御着席	
2	開式通告	ファンファアレI
3	選手団入場	行進曲「Millaie」
4	開会宣言	ファンファアレII
5	国旗儀礼	国歌斉唱
6	大会旗・県旗儀礼	高体連の歌唱
7	優勝杯返還	本県開催競技
8	大会会長挨拶	全国高体連会長
9	祝辞	
	知事	
10	歓迎のことば	会場地代表市長 生徒代表
11	皇族のおことば	
12	選手代表宣誓	ファンファアレIII
13	閉式通告	ファンファアレIV
14	皇族御退席	

〔行進曲〕

- 選手団入場曲
  - ・「Millaie (未来絵)」 富川杉良さん作曲
  - ・「ブルー・マリーン」(三重国体マーチ)  
 (昭和50年国民体育大会使用曲)
  - ・マーチ三重  
 (昭和48年度全国高等学校総合体育  
 大会マーチング演技曲)

○選手団移動曲、選手団退場曲

・検討中

〔歓迎演技〕28分間程度

〔テーマ〕 ええやん！やるで！ここ三重の地で！  
 〔コンセプト〕 平成最後のインターハイで、全国から集まった選手達が、明日からの大会に向  
 けた活力を得て、東海の空にはばたく。

章 (時間・出演者)

第1章 6分  
 <海と山と空と-みえ>  
 和太鼓：稲葉特別支援(約20人)  
 体操競技：県内高校生(約30人)  
 新体操：県内高校生(約30人)

イメージ

全国から激戦を突破して  
 きた選手達が、海と山と  
 空に囲まれた常夏の地  
 三重にきたことを実感す  
 る。

演出・ねらい

「ようこそ 三重へ」という歓迎の気持ちをダイ  
 ナミックな和太鼓演奏、アクロバティックな体  
 操演技、三重を連想させる新体操の演技で  
 表現し、選手たちの心を惹きつけます。

第2章 5分  
 <過去から未来へ>  
 司会：県内高校生

昭和から始まったインター  
 ハイが、三重の地で平成最  
 後の大会をむかえる。この  
 大会が新たな時代への断  
 渡しとなり、選手達の未来  
 での活躍を予感する。

三重の地で、選手達自身が新たな時代へと  
 向かうさまを、過去から未来を想像させる映  
 像と高体生のナレーションで表現します。

第3章 5分  
 <輝き>  
 ダンスパフォーマンス：  
 三重(約100人)

未来へはばたく選手達  
 の爆発的なエネルギー  
 が弾ける。

実際の競技のように直前に精神を集中させる  
 緊張感やエネルギーを、大勢の高校生が細  
 部まで意思の行き渡ったダンスパフォーマンス  
 で表現します。

第4章 6分  
 <彩る感動>  
 マーチング：相可、松阪  
 工業、三重(約80人)  
 カラーガード：松阪工業  
 (約25人)

競技に挑む選手達(「す  
 る人」と「見る人」、「支え  
 る人」)が一体となる。

積み重ねてきたものの重み、それを礎に新し  
 いことに挑戦する意欲を感じてもらいように、  
 仲間と協力し最大限に力を発揮する情熱溢  
 れる様子を、マーチング演奏とカラーガード  
 演技のコラボで表現します。

第5章 6分  
 <Millaie (未来絵)>  
 第1章～4章の全出演者  
 他(約300人)

メッセージを受けとった  
 選手達が、明日からの大  
 会に向けた活力を得て、  
 未来にはばたく。

選手たちの体内に明日からの大会に向けた  
 活力がみなぎるよう、式典音楽隊による演奏  
 をバックにダンス隊が演技をするともに、大  
 会に關わるすべての生徒が加わって、一体  
 感溢れる動きを表現します。

〔選手団激励〕

歓迎演技に引き続き、選手団へ激励を約15分間程度実施。その後、選手団退場。

〔式典前映像〕

東海4県の高校生が、4県の魅力と開催競技、競  
 会場等を紹介する映像作品を制作し、総合開会式開  
 前に会場の大型モニターで放映。

〔内容〕

- ①東海4県の紹介(名所、食文化等)
- ②各競技会場・会場地紹介
- ③東海4県の高校生生活助紹介
- ④歓迎映像(大会参加者への激励等)

〔企画・撮影〕

- ・企画・撮影 東海4県の高校生が担当
- 三重県担当校：桑名西・松阪・鈴鹿

〔草花装飾〕会場周辺を装飾

《立体装飾 3点》

- ・屋内装飾物(みえびい+ウイニンくん) 伊賀白
- ・屋外装飾物(高体連マーク+みえびい) 久居農
- ・屋外装飾物(シンボルマーク) 四日市農



シンボルマーク



高体連マーク



ウイニンくん



みえびい

《フラワーアレンジメント》

明

《プラントナー装飾》

県内農業高

- ・サルビア、マリナーゴールド等を設置
- ・総合開会式周辺及び各競技種目別大会会場等に設





# 三重ととわか国体

第76回国民体育大会 ときめいて人 かがやいて未来 2021